

滋賀県立大学 学長挨拶

本学の教職員が得意とする研究の最新情報を広く皆様にお知らせするため、「滋賀県立大学 地域連携ガイドブック」を改訂いたしましたので、お届けします。是非、ご活用ください。

滋賀県立大学は平成 7 年の開学以来、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」のモットーのもと、地域との連携に取り組んでまいりました。教育においては、地域や社会の課題解決に取り組む力を鍛える「地域教育プログラム」を整備し、フィールドワークや講義に地域で活躍されている方々を講師に迎えて、大学と地域が共に学ぶ関係づくりを進めています。

また、研究においては、平成 25 年度から 29 年度まで、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)」に採択され、「公募型地域課題研究」を推進してまいりました。5 年間の実施期間中に、連携自治体の方々をはじめとした 108 名の地域研究員と共に、50 件の地域課題に取り組みました。さらに本年度からは、SDGs の視点に基づく「SDGs 特化型地域課題研究」として、新たな取り組みを進めているところです。

社会貢献については、大学 COC 事業の一環として、地域課題解決のため大学の教職員や学生をはじめ、地域からも多様な人々が集まり、学びと実践が両立する拠点として「地域デザイン・カレッジ」を 6 つの自治体で設置されました。平成 29 年度に COC 事業が終了した後も、多くの地域で主体的に、この拠点を継続して活用いただいています。

このように地域と連携した一連の取り組みは、本学が目指す「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する大学」の実践に他なりません。さらに大学と地域が「共に育ち」、「共に未来を創る」強固な関係を構築するには、常に両者が相互に理解し合い、また、緊密に連携することが必須です。また、本学では 2018 年 6 月に「滋賀県立大学 SDGs 宣言」を行いました。誰ひとり取り残さない持続可能な社会の実現を目指して、全学を挙げて世界と地域に貢献することを宣言したものです。今後も地域の皆様とともに、SDGs の達成に向けて取り組みます。

本ガイドブックが、本学と皆さまとの連携の絆をさらに太くするのに役立つことを、切に願っています。

滋賀県立大学学長 廣川 能嗣

滋賀県立大学の問い合わせ窓口・情報検索

マッチングのための相談窓口

滋賀県立大学では、次の3つのセンターを窓口として地域連携や産学連携を展開しています。

地域共生センター

地域課題の解決や地域共生に関する教育・研究および地域社会で活躍する人材の育成などを通じて、地域連携に取り組んでいます。

地域共生センターでは、次のようなご相談をお受けします。

- 地域づくり・地域活動に関すること
- 地域課題の解決や地域づくりに向けた受託研究に関すること

関連 URL：地域共生センターウェブサイト <http://ccdp.usp.ac.jp/>

産学連携センター

企業の研究開発や新規事業の創出支援に向けた産業界等との共同研究などを通じて、産学連携に取り組んでいます。

産学連携センターでは、次のようなご相談をお受けします。

- 科学技術等に関すること
- 計測分析機器等の貸出に関すること
- 大学との共同研究・受託研究に関すること
- 大学との共同研究に向けた研究実験室等の貸出に関すること

関連 URL：産学連携センターウェブサイト <http://sangaku.office.usp.ac.jp/>

地域ひと・モノ・未来情報研究センター

地域課題を ICT 化手法で解決する研究開発を行っています。地域の皆様・企業と地域課題の解決に具体的に取り組み、滋賀モデルとして全国に発信することを目指します。

地域ひと・モノ・未来情報研究センターでは、次のようなご相談をお受けします。

- ICT 技術等に関すること
- ICT 化手法による地域課題解決に関すること

関連 URL：地域ひと・モノ・未来情報研究センターウェブサイト <http://www.ict.usp.ac.jp/>

研究者情報の検索

滋賀・地(知)のデータベース <http://coc-biwako.net/portal.html>

研究者総覧「知のリソース」 <http://db.spins.usp.ac.jp/>

問い合わせ先

滋賀県立大学 地域連携・研究支援課

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

TEL：0749-28-8209（産学連携）／8210（地域連携）

FAX：0749-28-8473

Mail：chiiki_koken@office.usp.ac.jp

研究者一覧 目次

職名	氏名	専門分野 キーワード	掲載ページ
----	----	---------------	-------

理事長・副学長／理事・副学長

理事長・学長	廣川 能嗣	機能性高分子材料, 高分子ゲル科学-----	13
		高分子, ゲル, プラスチック, ゴム, 繊維	
理事・副学長	倉茂 好匡	地形学, 陸水物理学, 大学授業改善活動, スペイン語 -----	13
		地形学の基本, 河川とその周辺の地形, 授業の基本, カリキュラム点検法, 初級中級のスペイン語	
理事・副学長	山根 浩二	エンジンシステム工学 -----	14
		ディーゼルエンジン, バイオ燃料, 油脂, 燃焼, エネルギー	

環境科学部

環境科学部 環境生態学科

教授	西田 隆義	生態学-----	15
		外来種, 希少種, 保全生態学, 動物, 植物	
教授	小泉 尚嗣	地震地下水学-----	15
		地下水, 地震, 地殻変動, 活断層, 地震予測	
教授	伴 修平	水圏生態学-----	16
		プランクトン, 琵琶湖, 水草利活用, メタン発酵, 微細藻培養	
教授	丸尾 雅啓	水圏化学, 分析化学-----	16
		琵琶湖, 河川, 栄養塩, 微量分析, 化学スペシエーション	
教授	浦部 美佐子	陸水生物学, 寄生虫学-----	16
		河川, 寄生虫, 進化, 分類, 外来種	
准教授	野間 直彦	生態学-----	17
		木の実, 里山, 鳥獣害, トチノキ, 外来水草	
准教授	後藤 直成	陸水学-----	17
		琵琶湖, 水質, 物質循環, 植物プランクトン	
准教授	吉山 浩平	理論生態学-----	17
		数理モデル, 統計解析, 生物群集, 空間パターン形成	
准教授	堂満 華子	環境変遷学-----	18
		第四紀, 古環境復元, 堆積物, 微化石, 浮遊性有孔虫	
准教授	細井 祥子	分子微生物, 環境微生物, 微生物生態学-----	18
		有毒・有害プランクトン, 微生物制御, 遺伝子発現解析, 微生物群集構造解析	
助教	籠谷 泰行	森林生態学-----	18
		森林, 生態系, 環境形成機能, 物質循環, 琵琶湖集水域	
助教	肥田 嘉文	環境科学, 影響評価科学-----	19
		安全観, 天然毒性, 化学物質, リスク評価, 体の柔らかさ	
助教	尾坂 兼一	森林水文学-----	19
		水質, 同位体比, 森林, 集水域	
助教	工藤 慎治	大気科学-----	19
		大気汚染物質, 微小粒子状物質 (PM2.5), 化学分析, 発生源解析	

環境科学部 環境政策・計画学科

教授	金谷 健	廃棄物管理-----	20
		廃棄物政策, 廃棄物処理計画, 廃棄物処理施設, 自治体, 施策の有効性と限界	
教授	井手 慎司	水環境管理-----	20
		琵琶湖, 水質, 生態系, 景観, 住民参加	
教授	上河原 献二	環境法・環境政策-----	21
		自然環境保全制度, 外来水生植物管理制度, 地球環境条約制度	
教授	高橋 卓也	森林政策・計画, 環境経営-----	21
		森林認証, 水源林, 環境支払い, 環境マネジメントシステム, 環境マーケティング	
教授	香川 雄一	環境地理学, 都市社会地理学-----	21
		公害反対運動, 地域住民, 地域環境問題, 工業都市, 沿岸域	
准教授	瀧 健太郎	流域政策・計画-----	22
		水工学, 自然災害科学・防災学, 土木環境システム	

准教授	林 幸司	環境経済学 -----	22
		貿易と環境, 地球温暖化, 気候変動	
准教授	村上 一真	環境経済学, 開発経済学, 行動経済学 -----	22
		環境配慮行動, サプライチェーンマネジメント, グリーンイノベーション, 地球温暖化抑制, 社会実験	
准教授	和田 有朗	環境計画, 環境政策 -----	23
		環境意識, 環境配慮行動, 小型家電リサイクル, エネルギー教育	
助教	平岡 俊一	環境ガバナンス, 市民参加・協働, 社会学 -----	23
		持続可能な地域づくり, 市民参加・協働, NPO, 中間支援組織, 地域エネルギー政策	
助教	平山 奈央子	湖沼政策学 -----	23
		政策過程論, 参加型流域評価, 連携・協働, 市民参加	
助教	白木 裕斗	エネルギーシステム学 -----	24
		エネルギーシステム, シミュレーション分析, 電力システムモデル, 電力需要, 要因分解	

環境科学部 環境建築デザイン学科

教授	陶器 浩一	建築構造 -----	25
		構造計画, 構法, 竹構造, ものづくり, 建築設計	
教授	村上 修一	ランドスケープデザイン -----	25
		景観, 風景, 造園, 土地の履歴, グリーンインフラ	
教授	高田 豊文	建築構造学 -----	26
		応用力学, 構造最適化, 構造形態創生, 木質構造, 耐震診断	
教授	白井 宏昌	建築史, 建築設計理論 -----	26
		建築デザイン, 都市デザイン, ツーリズム, 創造的歴史学	
教授	芦澤 竜一	建築デザイン -----	26
		建築設計, 環境建築, 建築デザイン, サステイナブルデザイン, パッシブデザイン	
准教授	金子 尚志	建築環境デザイン -----	27
		環境共生, 地域環境, 自然エネルギー, サステイナブルデザイン, クリマデザイン	
准教授	ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン	建築史・意匠, 都市計画・建築計画 -----	27
		建築・歴史, スペイン植民地都市, 都市再生, 遺産修復保存	
准教授	轟 慎一	都市計画, 農村計画, 地域計画, 生活空間論, まちづくり -----	27
		都市計画, 農村計画, 地域計画, 生活空間論, まちづくり	
准教授	山崎 泰寛	建築メディア論 -----	28
		建築・デザインの展覧会, キュレーター, 近代建築史, デザイン史	
准教授	川井 操	都市・建築計画 -----	28
		建築計画, アーキテクトビルダー, アジア都市史, 地域計画, 建築設計	
講師	伊丹 清	建築環境工学, 建築設備 -----	28
		建物伝熱性状, 外皮, 開口部, 断熱性能, 日射熱取得性能	
講師	迫田 正美	建築空間論, 環境行動論, 作品論 -----	29
		デザイン史, 人の行動と環境, 芸術と建築, 科学・思想と建築, 物語に表現された空間	
助教	永井 拓生	建築構造 -----	29
		構造設計, 素材, 工法, コンピューテーション, デジタルデザイン	

環境科学部 生物資源管理学科

教授	鈴木 一実	植物病理学, 作物保護学 -----	30
		植物病原菌, 病原性発現機構, 病原性関連遺伝子, 宿主抵抗性, 殺菌剤の作用機構	
教授	大久保 卓也	環境工学, 生態工学, 水質科学 -----	30
		水質, 琵琶湖, 河川, 水田, 在来魚	
教授	須戸 幹	環境化学 -----	31
		農業, 水質, 微量化学物質, 環境動態, 流出メカニズム	
教授	杉浦 省三	水産学, 水産養殖, 養魚飼料 -----	31
		水産, 魚類, 養殖, 飼料, リン	
教授	泉 泰弘	作物学, 栽培学 -----	31
		イネ, 雑穀, タイズ, 間混作, 湿害対策	
准教授	岩間 憲治	土壌物理学, 農業農村工学 -----	32
		土壌構造, 土壌化学, 土壌環境修復, ファイトレメディエーション, GIS	
准教授	原田 英美子	植物科学 -----	32
		重金属集積植物, 水生植物, 石灰岩土壌, 金属分析, DNA バーコーディング	
准教授	上町 達也	園芸学 -----	32
		園芸, 花, 遺伝資源, 形態形成, 系統分類	

准教授	入江 俊一	応用微生物 -----33 遺伝子, 酵素, 木質バイオマス, 菌類, きのこと
准教授	高倉 耕一	生態学 -----33 野生生物, 在来種, 外来種, 害虫, 統計解析
准教授	清水 顕史	植物遺伝育種学 -----33 栄養ストレス耐性, バイオインフォマティクス, QTL 解析, 全ゲノム関連解析, 遺伝子探索
准教授	増田 清敬	環境経済学, 農業経済学 -----34 環境保全型農業, 環境効率, 地球温暖化
助教	飯村 康夫	土壌化学 -----34 土壌, 有機物, 物質循環, 地球温暖化, バイオ炭
助教	畑 直樹	蔬菜園芸学, 植物工場 -----34 養液栽培, 低環境負荷, 機能性成分, 地域伝統野菜, 連続光
助教	泉津 弘佑	微生物分子遺伝学, 植物病理学, 農薬科学 -----35 植物病原菌, 菌根共生菌, 殺菌剤, 分子遺伝学
助教	皆川 明子	農村生態工学 -----35 水田, 農業水路, 水管理, 生態系
助教	中川 敏法	家畜生産学, 家畜飼養学, 飼料開発・分析 -----35 反芻家畜, 消化試験, 動物行動調査, 飼料成分, 未利用資源

工学部

工学部 材料科学科

教授	バラチャンドラン ジャヤデワン	材料科学 -----36 機能性ナノ材料, 金属ナノ粒子, 磁性ナノ粒子, 導電性ナノ粒子・ナノワイヤ, 触媒ナノ粒子
教授	松岡 純	無機材料科学 -----36 ガラス, 高温物性, 破壊, セラミックス, 電子部品
教授	徳満 勝久	高分子材料, プラスチック成形加工, 複合材料 -----37 高分子物性, レオロジー, 成形加工, 劣化と耐久性, 高分子ブレンド
教授	奥 健夫	エネルギー材料科学 -----37 光, エネルギー, 太陽電池, 量子情報, 原子配列
教授	金岡 鐘局	高分子合成, 機能性高分子 -----37 高分子, 繊維, 機能性材料, 分岐ポリマー, 反応制御
教授	北村 千寿	有機化学 -----38 有機合成, 分子, 芳香族炭化水素, 色素
准教授	宮村 弘	金属材料学 -----38 水素吸蔵合金, 電池材料, 結晶構造解析, 窒化物, 非平衡相
准教授	竹下 宏樹	高分子構造, 高分子物性 -----38 プラスチック, 高分子ブレンド, 結晶性高分子, 液晶, ゲル
准教授	秋山 毅	機能物性化学, デバイス関連化学 -----39 フラーレン, 導電性高分子, ナノ粒子, 太陽電池, 光触媒
准教授	吉田 智	ガラス科学 -----39 ガラス, 破壊, 強度, ガラス融体
准教授	谷本 智史	高分子界面科学 -----39 微粒子, 表面界面, 天然高分子, マイクロカプセル, 金属イオン捕集
准教授	加藤 真一郎	構造有機化学 -----40 有機合成, 芳香族化合物, 複素芳香族化合物, 超分子材料, 蛍光材料
助教	鈴木 厚志	有機・無機ハイブリッド系太陽電池, 量子コンピューター -----40 ペロブスカイト系太陽電池, エネルギー変換材料, 第一原理計算
助教	竹原 宗範	生物有機化学, 応用微生物学 -----40 生体機能材料, ペプチド, 酵素, 脂質, 発酵
助教	伊田 翔平	高分子精密合成, ゲル化学 -----41 高分子ゲル, 高分子合成, 精密ラジカル重合, 機能性高分子, 刺激応答性材料
助教	鈴木 一正	無機化学 -----41 ゾルゲル, 液相プロセス, 有機-無機ハイブリッド, 金属酸化物, カーボンドット

工学部 機械システム工学科

教授	安田 寿彦	メカトロニクス -----42 福祉ロボット, 障がい児用電動移動支援機器, 自立支援型移乗介助ロボット, 看護・介護動作改善システム
教授	南川 久人	流体工学, 混相流工学 -----42 混相流, マイクロバブル, ファインバブル, 野菜の水耕栽培, 発生装置
教授	奥村 進	ライフサイクル工学 -----43 ライフサイクル設計, 環境配慮型製品, メンテナンス, 設計・製造パラメータのロバスト化
教授	門脇 光輝	数学 -----43 偏微分方程式論, スペクトル・散乱理論
教授	呉 志強	振動工学, 計算力学 -----43 CAE, 振動抑制, 共振, 最適設計, 軽量化設計
教授	田邊 裕貴	材料強度学 -----44 破壊, 疲労, 摩耗, 表面処理, 非破壊検査
准教授	山野 光裕	ロボット工学 -----44 機械工学, メカトロニクス, ロボット制御, ロボットアーム, 人間型ロボット
准教授	橋本 宣慶	生産加工学 -----44 教育訓練システム, 技能伝承, バーチャルリアリティ, ヒューマンインタフェース
准教授	河崎 澄	熱工学, 内燃機関 -----45 ディーゼルエンジン, ガスエンジン, 燃料, 燃焼
准教授	安田 孝宏	流体工学 -----45 物体周りの流れ, 流体抵抗低減, 流体騒音低減, 風洞実験, 数値流体解析
准教授	大浦 靖典	機械力学 -----45 固有振動, 自励振動, 連成振動, 騒音
助教	西岡 靖貴	ソフトメカニズム, 知能機械学 -----46 ソフトアクチュエータ, 空気圧システム, メカトロニクス, 福祉工学, 生体計測
助教	和泉 遊以	材料強度学, 非破壊検査工学 -----46 非破壊検査, 赤外線サーモグラフィ法, 疲労き裂, はく離, 維持管理
助教	栗本 遼	流体工学, 混相流工学 -----46 流体, 混相流, 数値シミュレーション
助教	田中 昂	振動工学 -----47 振動, 超音波, 検査, モニタリング

工学部 電子システム工学科

教授	乾 義尚	電力工学 -----48 電力変換・制御, 電力貯蔵, エネルギーシステム, 自然エネルギー
教授	作田 健	計測工学 -----48 磁気計測, 非破壊, 微小信号, 信号処理
教授	柳澤 淳一	半導体プロセス工学, イオンビーム工学 -----49 半導体, デバイス, 超微細加工, ナノテクノロジー, イオンビームプロセス
教授	岸根 桂路	集積システム・通信方式 -----49 集回路, 通信システム機器・部品, センサー
教授	酒井 道	メタマテリアル科学, ネットワーク科学, プラズマ理工学 -----49 メタマテリアル, 電磁波, 複雑ネットワーク, プラズマ, スマート化
教授	砂山 渡	人工知能, データサイエンス -----50 意思決定支援, 知識創発, データマイニング, テキストマイニング, 情報可視化
准教授	宮城 茂幸	デジタル信号処理 -----50 画像信号処理, 深度画像, 加速度センサー, 3D 復元, 行動解析
准教授	福岡 克弘	電気計測, 電気磁気学 -----50 非破壊検査, 電磁気応用, 磁気計測, 電気計測, 有限要素法解析
准教授	畑中 裕司	画像情報処理 -----51 医用画像, 画像認識, バーチャルリアリティ, 機械学習, 組み合わせ最適化
准教授	坂本 眞一	超音波エレクトロニクス, 熱音響工学 -----51 音響, エネルギー, 超音波, 熱音響
准教授	一宮 正義	光物性 -----51 非線形光学, ナノ結晶作製, 物性評価
准教授	土谷 亮	集積デバイス -----52 集積回路, 通信, センサー

助教	小郷原 一智	自然画像処理, 惑星気象学 -----52 地球, 火星, 衛星観測, 気象学, 人工知能
助教	榎本 洸一郎	画像工学, システム情報科学 -----52 画像工学, 画像計測, システム工学, 農林水産業, 実応用
助教	平山 智士	プラズマ電磁流体力学, 電気機器学 -----53 電力遮断, 放電, プラズマ, 数値シミュレーション
助教	井上 敏之	集積回路設計, 無線システム -----53 集積回路, 無線システム, センサネットワーク

工学部 ガラス工学研究センター

助教	山田 明寛	ガラスおよび融液の科学, マグマの科学, 惑星内部物質科学, 高圧物質科学 -----54 ガラス・融液の構造, 高温高圧, X線・中性子線分析
----	-------	--

工学部 地域ひと・モノ・未来情報研究センター

准教授	杉山 裕介	偏微分方程式論 -----54 偏微分方程式論, 調和解析, 実関数論
-----	-------	--

人間文化学部

人間文化学部 地域文化学科

教授	濱崎 一志	都市史, 保存修景 -----55 古民家再生, 空き家の利活用, 町なみ保存, 文化的景観の保存
教授	水野 章二	日本史 -----55 日本中世の村落史, 環境史, 災害史, 近江の地域史
教授	中井 均	日本考古学 -----56 中・近世城郭, 大名墓, 陶磁器, 戦争考古学
教授	市川 秀之	日本民俗学・博物館学 -----56 水利用, 当屋制, 歴史民俗学
教授	亀井 若菜	日本美術史 -----56 日本美術史, 絵巻, 近江を描く絵, ジェンダー, 女性像
教授	京楽 真帆子	日本史, ジェンダー史 -----57 平安京, 都市社会史, 女性史
教授	東 幸代	日本近世史 -----57 江戸時代, 古文書, 琵琶湖舟運, 漁業史, 歴史地震
准教授	武田 俊輔	社会学 -----57 地方都市, 村落, 祭礼, 民俗芸能, メディア
准教授	塚本 礼仁	人文地理学 -----58 産地, 特産物, フードシステム, 地場産業
准教授	石川 慎治	建築史, 保存修景計画学 -----58 伝統的建造物の保存, 町なみ保存, 文化的景観の保全, 文化遺産教育
准教授	萩原 和	地域計画学 -----58 都市農村における景観まちづくり, 地域資源管理
助教	横田 祥子	社会人類学, 地域研究 -----59 東アジアにおける女性の移動, 結婚, 家族, 再生産労働, 華人
助教	鈴木 開	朝鮮近世史, 中朝関係史 -----59 朝鮮王朝, 燕行使, 朝鮮通信使, 東アジア国際関係, 外交

人間文化学部 生活デザイン学科

教授	面矢 慎介	道具デザイン論 -----60 道具学, デザイン史, 考現学, 伝統産業とデザイン
教授	宮本 雅子	居住環境 -----60 照明, 色彩, 環境バリアフリー
教授	印南 比呂志	地域デザイン, 地域ブランド, 職人研究 -----61 地域, 職人, まちづくり, 絶滅危惧, 限界集落, 道具, デザイン, イタリア
教授	森下 あおい	服飾デザイン, 被服人間工学 -----61 服飾, デザイン, テキスタイル, 体形

准教授	横田 尚美	服飾文化史, 西洋服装史 -----61
准教授	藤木 庸介	服飾文化, ファッション, 西洋服装史, 洋装化, ファッション情報 建築計画, 都市計画, 文化遺産観光-----62
講師	佐々木 一泰	建築設計, 古民家再生, 伝統的居住文化, 少数民族居住文化 空間デザイン, 建築設計, 商業空間設計, デザインブランディング -----62
助教	山田 歩	空間デザインに関する調査研究及び制作, 建築設計, 商業空間設計, デザインブランディング, 近現代建築の構法研究 マーケティング, 心理学, 行動デザイン -----62
助教	南 政宏	マーケティング・リサーチ, 行動観察, 行動経済学, プロモーション プロダクトデザイン, ブランディングデザイン -----63
		プロダクトデザイン, ブランディングデザイン, グラフィックデザイン, パッケージデザイン, デザインビジネス

人間文化学部 生活栄養学科

教授	矢野 仁康	病態栄養学 -----64
教授	中井 直也	ポリフェノール, ストレス蛋白質, 細胞死 運動栄養学, 筋生理・生化学-----64
教授	辰巳 佐和子	筋肉, タンパク質合成, 筋サテライト細胞, アミノ酸 臨床栄養学, 老化の栄養学, 時間栄養学, 慢性腎臓病, 骨粗鬆症におけるミネラル代謝学-----65
教授	福渡 努	リン代謝, 健康寿命, 慢性腎臓病, 骨粗鬆症, 時間栄養 基礎栄養学 -----65
准教授	小澤 恵子	アミノ酸, ビタミン, 栄養素代謝, 栄養評価 給食経営管理, 臨床栄養 -----65
准教授	奥村 万寿美	高齢者の栄養, 嚥下障害, 障害に合った食形態の工夫 臨床栄養学, 栄養教育 -----66
准教授	廣瀬 潤子	栄養・食事指導, 食育, スポーツ栄養サポート 栄養教育, 小児栄養 -----66
准教授	佐野 光枝	栄養教育・栄養指導, 授乳期, 乳児, 母乳 食品学, 分子栄養学 -----66
准教授	今井 絵理	DOHaD (生活習慣病胎児期起源説), 妊婦と胎児の栄養, アミノ酸 公衆栄養学, 栄養疫学 -----67
准教授	東田 一彦	公衆栄養学, 栄養疫学, 食事パターン, 食生活 運動生理・生化学, スポーツ栄養学-----67
助教	遠藤 弘史	骨格筋, 栄養, 運動, 糖代謝, 脂質代謝 病態栄養学, 分子細胞生物学-----67
助教	桑原 頌治	食成分, ポリフェノール, 生活習慣病 臨床栄養, 腎臓, 糖尿病 -----68
助教	畑山 翔	腎臓における物質の輸送, 慢性腎臓病, 糖尿病性腎臓病, 急性腎障害, たんぱく質と腎障害 基礎栄養学 -----68
		アミノ酸, ビタミン, 脳機能, 栄養状態, 生体有効性

人間文化学部 人間関係学科

教授	細馬 宏通	人間行動学 -----69
教授	松嶋 秀明	心理学, 社会学, コミュニケーション論, 会話分析, ジェスチャー分析 臨床心理学 -----69
教授	上野 有理	非行の立ちなおり, スクールカウンセラー, 放課後児童クラブ 比較認知発達科学 -----70
教授	丸山 真央	乳幼児, 発達, 進化, 保育, 食行動 地域・都市社会学, 村落社会学, 政治社会学 -----70
准教授	大野 光明	地域社会, 地方自治, 都市, 農山漁村, 社会調査 歴史社会学, 社会運動史 -----70
准教授	木村 裕	基地・軍隊, 社会運動・市民運動, 環境, 暴力 教育方法学, 教育学 -----71
准教授	杉浦 由香里	持続可能な開発のための教育 (ESD), グローバル教育, カリキュラム, 教育評価, 授業研究 教育学, 教育史 -----71
		教育制度, 地方教育行政, 地域教育史, 実業補習学校制度

准教授	原 未来	教育学-----71 青年期教育, 若者支援, ニート・ひきこもり
助教	中村 好孝	社会学-----72 (とくに精神) 障害者福祉, 社会的ひきこもり, インクルーシブ教育
助教	後藤 崇志	社会心理学, 教育心理学, 認知心理学 -----72 モチベーション, セルフコントロール, 社会的影響, 心理測定, 調査設計

人間文化学部 国際コミュニケーション学科

教授	棚瀬 慈郎	文化人類学, チベット地域研究 -----73 文化人類学, チベット
教授	呉 凌非	言語学, 言語処理 -----73 深層格, 表層格, 意味構造, 動詞分類, モダリティ表現
教授	ジョン リピー	アメリカ文学, 創作(詩), 外国語習得 -----74 アメリカの詩, 詩の創作, 自然, 里山, 日本の詩・翻訳
教授	ボルジギン ブレンサイン	近現代史, 現代中国研究, モンゴル満洲地域研究 -----74 近現代史, モンゴル・満洲地域研究, 中国の少数民族問題, 日中関係
教授	小熊 猛	認知言語学, 認知文法, 英語学 -----74 構文, 形式と意味, 意味論, 語用論, 事態認知
准教授	山本 薫	英文学 -----75 英語圏文学, 世界文学, ヨーロッパ現代思想
准教授	島村 一平	文化人類学, モンゴル研究 -----75 モンゴル, 民族問題, シャーマニズム, 仏教, ポピュラー音楽, グローバリズム, チンギスハーン観
准教授	吉村 淳一	ドイツ語学 -----75 ドイツ語, ドイツ語史, ドイツ文化, 言語学, メディア学
准教授	河 かおる	朝鮮近代史 -----76 朝鮮・韓国, 植民地, 在日朝鮮人, 地域史, 多文化共生
准教授	マーティン ホークス	応用言語学 -----76 タスクを重視した言語教育, 言語教授法, 第二言語習得, 英語の歴史
助教	谷口 真紀	国際理解・国際平和 -----76 ジーン・シャープ, 非暴力行動, 新渡戸稲造, クエーカー信仰
助教	橋本 周子	文化史, 思想史 -----77 フランス, 近代, 美食, 社交

人間看護学部

人間看護学部 人間看護学科

教授	甘佐 京子	精神看護学 -----78 心の病(精神疾患), 心の健康(メンタルヘルス)教育, 笑いと健康
教授	伊丹 君和	基礎看護技術, 教育工学 -----78 生活と健康, リラクゼーション, 防災, 腰痛予防, 学習システム
教授	糸島 陽子	成人看護学 -----79 エンドオブライフケア, エンドオブライフ教育, 医療倫理
教授	岩谷 久美子	母性看護学, 助産学 -----79 母性看護学教育, 助産学教育, 安全管理, 分娩介助, 子育て支援
教授	河野 益美	地域看護, 在宅看護学 -----79 在宅看護学教育, 家族支援, 在宅看取り, 介護保険制度, 訪問看護師のストレスマネジメント
教授	古株 ひろみ	小児看護学 -----80 プレパレーション, 学校看護師, 家族看護
教授	越山 雅文	婦人科腫瘍学, 産科異常学 -----80 卵巣癌, 子宮体癌, 子宮頸癌, 足浮腫, 医療機器
教授	平田 弘美	老年看護学 -----80 高齢者, 認知症, 攻撃的行動
教授	安原 治	解剖学, 神経科学, 神経内科学, 神経病理学 -----81 神経疾患, 認知症, 脳のしくみ
教授	横井 和美	臨床看護学, 慢性期看護学 -----81 慢性の病い, セルフマネジメント支援, ケアとしての音楽療法
准教授	荒川 千登世	成人看護学 -----81 臨床看護学, 急性期看護, 回復期看護, 看護教育, リンパ浮腫ケア

准教授	板谷 裕美	助産学, 母性看護学 -----82
		母乳育児, 産後ケア, ウィメンズヘルス, 月経カップ, 助産教育
准教授	大脇 万起子	家族看護学, 障害児看護, 小児保健-----82
		子どもの成長発達, 発達障害, 家族支援, 看護介入方法の開発, 支援ツールの開発
准教授	窪田 好恵	基礎看護学 -----82
		看護理論, 重症心身障害看護, 看護管理, 看護倫理
准教授	小林 孝子	公衆衛生看護 -----83
		母子保健, 育児支援, 保健師, 発達障害
准教授	馬場 文	公衆衛生看護学 -----83
		児童虐待防止, 子どもの貧困, 地域診断
准教授	古川 洋子	母性看護学, 助産学 -----83
		産み育て支援, 思春期の健康支援, いのちの教育, 女性の健康(ウィメンズヘルス)支援
准教授	牧野 耕次	精神看護学 -----84
		患者看護師関係, involvement, かかわり, 巻き込まれ, 境界
准教授	森本 安紀	在宅看護 -----84
		在宅看護, 訪問看護
准教授	米田 照美	基礎看護学 -----84
		危険認知, 視線運動, 医療安全, 看護学生, 看護師
助教	生田 宴里	クリティカルケア看護 -----85
		救急看護, 周術期看護, エンドオブライフケア
助教	岡崎 瑞生	老年看護学 -----85
		高齢者, 障害者, 家族支援
助教	小野 あゆみ	成人看護学 -----85
		慢性期看護, エンドオブライフケア, 肝疾患患者の支援, 集団教育
助教	川端 智子	小児看護学 -----86
		未成年の喫煙防止教育, タバコに関する健康教育
助教	喜多下 真里	成人看護学 -----86
		がん看護, 緩和ケア
助教	下通 友美	精神看護学 -----86
		心の病気(精神疾患), 地域生活支援, 精神科訪問看護
助教	関 恵子	基礎看護学 -----87
		看護技術, リラクゼーション, マッサージ, 看護師の腰痛
助教	千田 美紀子	基礎看護学 -----87
		学生, 学び, 実習指導, 腰痛予防, 教育
助教	大門 裕子	成人看護学 -----87
		回復期, 慢性期, 脳卒中看護, 口腔ケア
助教	玉川 あゆみ	小児看護学 -----88
		発達障害児とその家族への看護, プレパレーション
助教	中川 美和	クロニックケア看護 -----88
		慢性疾患看護, 語り, ライフヒストリー
助教	渡邊 友美子	母性看護学, 助産学 -----88
		育児不安, 子育て支援, 産後の母親サポート
助手	川口 恭子	公衆衛生看護学 -----89
		公衆衛生看護, 保健師活動, ひきこもり, 家族支援
助手	濱野 裕華	母性看護学, 助産学 -----89
		助産師, 助産師教育
助手	松井 宏樹	老年看護学 -----89
		高齢者, 看護, 骨粗鬆症

全学共通教育推進機構

特任教授	福井 雅英	臨床教育学, 教師教育 -----90
		子ども理解のカンファレンス, 生徒指導, 教師の専門性, 学校論
特任准教授	島田 和久	政治学, 日本学, 大学国際化-----90
		地域ガバナンス, 里山, 自然災害, SDGs
特任准教授	菰田 真由美	英文学・英語教育 -----91
		20世紀イギリスモダニズム文学, ヴァージニア・ウルフ, 高大接続英語教育, 異文化理解
特任准教授	渡 寛法	英語教育 -----91
		アカデミック・ライティング, フィードバック, 図的外化, 意味順, 教育文法

特任准教授	神田 眞喜子	英語教授法, 第二言語習得 -----	91
		タスクを取り入れた英語教育, スピーキング指導, 文法指導	
特任准教授	坂本 輝世	外国語教育論 -----	92
		大学英語教育, (WTC) Willingness to Communicate	
特任准教授	アルマンド ドゥアルテ	言語・英語 -----	92
		Speaking assessment, CALL, teacher education	
特任助教	柴川 真由美	外国語教育, 日本語教育, e ラーニング, 社会言語学 -----	92
		言語学, 第二言語習得, 日本語	

地域共生センター

准教授	鵜飼 修	地域計画, 地域活性化, まちづくり, NPO, コミュニティ・ビジネス -----	93
		持続可能, 地域づくり, 地域ビジョン, 地域診断法, 健康まちづくり, コミュニティ・ビジネス, ワークショップ, まちづくり基本計画	
助教	上田 洋平	地域文化学, 地域学 -----	93
		地域再生, まちづくり, 地域文化, 地域資源活用, 地域人材育成	
特任准教授	森川 稔	まちづくり 都市・地域計画 -----	94
		まちづくり, 都市・地域計画, 地域再生, ワークショップデザイン, 人材育成	

学生支援センター

特任教授	高松 徹	機械工学, 破壊力学, 信頼性工学 -----	94
		薄板金属材料, 複合材料, セラミックス, 薄膜, 疲労	

キーワード検索 -----	95
---------------	----

研究者一覽

理事長・学長 理事・副学長

廣川 能嗣 HIROKAWA Yoshitsugu

理事長・学長



専門分野：機能性高分子材料，高分子ゲル科学
キーワード：高分子，ゲル，プラスチック，ゴム，繊維

地域連携・産学連携・地域活動について：

プラスチック、ゴム、繊維などの高分子材料は、金属材料やセラミックス材料とともに、我々の生活になくってはならない材料となっています。その一方で、高分子の特徴である難分解性が環境問題を引き起こしたりしています。

学生時代に高分子化学を勉強し、高分子の素材メーカーで、30年近く研究開発に従事していました。また、滋賀県立大学では、高分子ゲルの合成、性質、応用について研究を進めてきました。

これらの経験から、高分子ゲルのみならず、高分子材料一般について、その作り方や性質、使い方など、材料の研究開発の面白さをはじめ、高分子の環境問題など、いろいろな観点からお話しすることができます。

倉茂 好匡 KURASHIGE Yoshimasa

理事・副学長



専門分野：地形学，陸水物理学，大学授業改善活動，スペイン語
キーワード：地形学の基本，河川とその周辺の地形，授業の基本，カリキュラム点検法，初級中級のスペイン語

地域連携・産学連携・地域活動について：

本来の専門は、河川の土砂運搬です。河川の濁りのこと、土砂の流れ方などを専門に研究してきました。そのためには、地形学の基本的な考え方も理解していません。これらに関連する講演など、これまでに多数行ってきました。また、もともとが中学や高等学校の理科教師だったので、その経験に基づいて、大学での授業改善活動を行っています。多くの大学で、授業の基本やアクティブラーニング、カリキュラム点検などに関するワークショップなどを開催しています。また、小学校段階を南米ボリビアで過ごしていたため、中央アンデス訛りのスペイン語を話します。この経験をもとに、初級や中級のスペイン語を本学学生に教える活動も行っています。



専門分野：エンジンシステム工学

キーワード：ディーゼルエンジン, バイオ燃料, 油脂, 燃焼, エネルギー

地域連携・産学連携・地域活動について：

研究では、たとえば軽油に代替することで地球温暖化防止に役立てるため、使い終わったあとの食用油や琵琶湖の藻からバイオディーゼル燃料を製造し、自動車や船などのエンジンで利用する際の課題を解決する方法を共同で研究したり、アドバイスするなどにより、NPOや民間企業等の技術向上に寄与しています。また、大手のテレビ局の情報・教育番組に複数出演し、バイオディーゼルカーを走らすなどで全国への情報発信も行っています。加えて、環境審議会大気環境部会委員や新エネルギービジョン策定委員などで県内外の自治体の施策策定等に貢献しています。さらに、県内高校の高大連携講座やSSH 推進委員、レイカディア大学などで県民の知のリソースとして寄与しています。

環境科学部

環境生態学科

西田 隆義 NISHIDA Takayoshi

環境科学部環境生態学科 教授



専門分野：生態学

キーワード：外来種, 希少種, 保全生態学, 動物, 植物

地域連携・産学連携・地域活動について：

外来種の侵入により在来種が駆逐される原因を解明して、在来種の保全策を立てることを目的に研究しています。具体的には、外来種からの繁殖干渉（近縁な異種間でのセクハラ）と捕食の非致死効果（捕食されないための工夫がもたらすコスト）に着目しています。こうした自然の中に潜んでいる意外な力をうまく利用して、お金をかけずに効率的に在来種の保全をしたいと考えています。研究の対象は、昆虫、ブラックバスやブルーギルなどの動物から、タンポポなどの雑草まで幅広く取り扱っています。

小泉 尚嗣 KOIZUMI Naoji

環境科学部環境生態学科 教授



専門分野：地震地下水学

キーワード：地下水, 地震, 地殻変動, 活断層, 地震予測

地域連携・産学連携・地域活動について：

活断層による琵琶湖周辺の環境形成・維持に関する研究
琵琶湖は、断層活動（大地震）のくり返しによって保持されてきた湖（＝構造湖）で周囲や湖底には多くの活断層があります。これらの活断層は、平常時は地下水の通路となっていて、水や（水に溶けた）物質を安定的に供給して、琵琶湖も含めた周辺の環境を維持し住民の生活を支えます。活断層の地震リスクだけでなく、恵みとしての部分も明らかにすることで、琵琶湖の環境について新たなモデルを作ることができると考えます。また、結果を地元に戻元することで滋賀県の地震防災・減災にも役立つと考えています。



専門分野：水圏生態学

キーワード：プランクトン, 琵琶湖, 水草利活用, メタン発酵, 微細藻培養

地域連携・産学連携・地域活動について：

真珠貝による水質浄化機能：草津市の受託研究として、淡水真珠養殖復興事業において、真珠貝による環境浄化機能の検証を行いました。

水草利活用：琵琶湖南湖で厄介者になっている沈水植物（水草）の利活用技術を開発中です。水草をメタン発酵処理することでエネルギーを取り出し、さらに発酵消化液を用いて微細藻類を培養し、消化液中の栄養塩を有価物に変換します。我々の研究室では、この発酵消化液の有効活用法を開発することによって、水草を循環利用するための研究を行っています。現在、滋賀県、草津市、関係大学・研究所、関連企業と共に、実用化に向けた研究を推進中です。



専門分野：水圏化学, 分析化学

キーワード：琵琶湖, 河川, 栄養塩, 微量分析, 化学スペシエーション

地域連携・産学連携・地域活動について：

琵琶湖はリン制限状態であるとされていますが、実際に足りないと言われているリンの化学的形態についてはあまり考慮されてきませんでした。今はもっとも微生物や植物プランクトンにとって利用されやすいと考えられる「リン酸イオン」が、琵琶湖水中のリンのどれだけを占めるかを調べています。余呉湖や河川など様々な水域での違いについて調べてみようと考えています。



専門分野：陸水生物学, 寄生虫学

キーワード：河川, 寄生虫, 進化, 分類, 外来種

地域連携・産学連携・地域活動について：

琵琶湖とその周辺河川を中心に、魚類、貝類、両生爬虫類などにみられる寄生虫の分類・生態学の研究をしています。寄生虫は複雑な生活史をもち、生態系と深い繋がりがあります。また、まだ研究があまり進んでおらず、新種発見や生活史の解明といった新発見が多いに期待できる生物でもあります。また、外来無脊椎動物（貝類や寄生生物）の研究も行っております。滋賀河川や琵琶湖沿岸域の生態系の保全や生物相などに関してアドバイスすることが可能で、滋賀県の公共事業評価監視委員会、環境影響調査審査会等で水生生物の専門家としての委員を務めたことがあります。



専門分野：生態学

キーワード：木の实, 里山, 鳥獣害, トチノキ, 外来水草

地域連携・産学連携・地域活動について：

木の实と、それを食ベタネを運ぶ鳥や獣との関係を研究してきました。そこからタブノキ林の保全や、クマの出没予測に役立てるためのブナ林の木の实の調査を（秋に県庁と共同で）しています。イノシシとサルによる農作物被害と里山環境の関係を研究して、山すそを伐採し「緩衝帯」を作って獣害を減らす提案をしました。それを手がかりに里山を使う将来像を考え、関連して焼畑の復活、源流域のトチノキ巨木林の保全、伊吹山や鈴鹿山脈の植物をシカから守る取組を行っています。また琵琶湖周辺に定着したオオバナミズキンバイなどの外来水草の研究と駆除も行っています。



専門分野：陸水学

キーワード：琵琶湖, 水質, 物質循環, 植物プランクトン

地域連携・産学連携・地域活動について：

琵琶湖の水環境について研究しています。現在は、主に、植物プランクトン群集の動態について研究を進めています。植物プランクトンは琵琶湖の水環境を左右する生物であるため、その動態を詳細にモニタリングすることは重要なテーマとなっています。

そのため、人工衛星や光学測器を用いて、植物プランクトンの現存量、種組成、一次生産速度を時空間的に高解像度で測定する手法を開発しています。その他、琵琶湖北湖湖底付近における溶存酸素動態（貧酸素化）や栄養塩動態に関しても研究を進めています。



専門分野：理論生態学

キーワード：数理モデル, 統計解析, 生物群集, 空間パターン形成

地域連携・産学連携・地域活動について：

不思議な現象に直面したとき、頭の中で説明を試みることもあると思います。しかし、その説明は本当に成り立つのでしょうか？説明は、他の条件に左右されて、あるいは打ち消されて成立しないかもしれません。このような場合、現象を数式（数理モデル）で表して計算することで、どのような条件下で現象が生じるか否かを明らかにすることができます。数理モデルは、現象全体を捉えてシンプルに表し理解を一步すすめるツールです。

私は生態系を対象に数理モデル、統計を用いて研究していますが、これらの手法は様々なことに対して有効です。なにかありましたらぜひご相談いただければと考えています。

堂満 華子

DOMITSU Hanako

環境科学部環境生態学科 准教授



専門分野：環境変遷学

キーワード：第四紀，古環境復元，堆積物，微化石，浮遊性有孔虫

地域連携・産学連携・地域活動について：

地球の過去のようす“古環境”を明らかにする研究に取り組んでいます。地球の環境はどのように移り変わってきたのか？そのメカニズムは？その答えが将来の地球環境を予測するためのヒントとなるかもしれません。古環境を復元するために、海底・湖底にふり積もった堆積物やそれに含まれる“微化石”を調べています。

これまでの研究成果をもとに、微化石とはなにか、微化石からどのようなことがわかるのかについて、高校生向けに紹介することができます。

細井 祥子

HOSOI Shoko

環境科学部環境生態学科 准教授



専門分野：分子微生物，環境微生物，微生物生態学

キーワード：有毒・有害プランクトン，微生物制御，遺伝子発現解析，微生物群集構造解析

地域連携・産学連携・地域活動について：

生態系において、様々な物質循環は微生物が担っています。地球温暖化や水質悪化といった地球環境問題は、その循環が崩壊した結果生じたものです。私は、特に水域における物質循環の劣化および修復に関する研究をしています。具体的には、琵琶湖集水域の水田がプランクトン増殖に及ぼす影響を調べたり、生物由来の物質を用いた水質浄化の研究を行っています。

籠谷 泰行

KAGOTANI Yasuyuki

環境科学部環境生態学科 助教



専門分野：森林生態学

キーワード：森林，生態系，環境形成機能，物質循環，琵琶湖集水域

地域連携・産学連携・地域活動について：

森林が環境に果たしている役割について、森林生態系（植生と土壌）における炭素や窒素、微量元素の物質循環に注目して研究しています。琵琶湖の上流部に位置する森林を対象とし、とくに天然林・里山林での自然的・人為的な植生変化が、土壌と林外の大気・水に与える影響、そして琵琶湖や地球環境にもたらす影響を明らかにしていきます。滋賀県や県内の市町、各種機関と連携し、地域の森林の問題について多角的な視点から、ともに検討していきたいと考えています。

専門分野：環境科学，影響評価科学

キーワード：安全観，天然毒性，化学物質，リスク評価，体の柔らかさ

地域連携・産学連携・地域活動について：

内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の問題に取り組んできたなかで、バックグラウンドとなる自然にもともと備わっている作用と相対化して毒性影響を俯瞰することの意義を学びました。これをきっかけに、突然変異の自然発生の仕組みから自然が行うリスク受容をデータとして示す研究、人が体を硬くするのは重力を受けるのに適応した股関節への力のかけ方が変わったためであるとの仮説の検証、などにテーマを広げ、自然に学ぶ視点で実地調査に基づく研究をしています。

また環境や健康への影響、それに対する社会での様々な管理・対策について、中学・高校の先生方に解説、講義をすることができると思います。



関西大学

専門分野：森林水文学

キーワード：水質，同位体比，森林，集水域

地域連携・産学連携・地域活動について：

主に森林の栄養塩循環と森林から流出する河川水質の関係について研究しています。産業革命以降、化石燃料や窒素肥料生産の増大で大気中の窒素酸化物が増加し、降水中の窒素酸化物が増えていますが、それが森林に与える影響や河川水質に与える影響も研究しています。



専門分野：大気科学

キーワード：大気汚染物質，微小粒子状物質（PM2.5），化学分析，発生源解析

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は、大気中に浮遊している物質の環境動態に関する研究に取り組んでいます。大気中には「臭いのある物質」や「目に見えない小さな物質」、「都市部や国外から輸送されてきた物質」などが存在しています。それらの物質は“大気汚染”に関係しており、その形態は気体や液体、固体とさまざまです。また、大気中に放出された物質が影響を及ぼす範囲は、発生した地点周辺の地域的なものから地球規模の広域的なものまで幅広く、大気だけでなく土壌や河川（湖・海）へと循環していきます。大気中に浮遊している物質の化学分析を通して物質の組成や発生源を調査し、地域に貢献していきたいと考えています。



環境科学部

環境政策・計画学科

金谷 健 KANAYA Ken

環境科学部環境政策・計画学科 教授



専門分野：廃棄物管理

キーワード：廃棄物政策，廃棄物処理計画，廃棄物処理施設，自治体，施策の有効性と限界

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は廃棄物の3R（廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル））や適正処理を促進するための、各種システムの有効性と限界に関する研究をしています。こうした研究に関連して、滋賀県や滋賀県内の市町などの廃棄物関連の審議会や委員会（廃棄物減量推進等審議会、処理施設整備検討委員会、処理施設立地選定委員会、処理施設整備事業者選定技術審査委員会、処理施設運営事業者選定技術審査委員会など）に委員として参画してきました。大学での教育研究に支障のない範囲で、今後も、こうした参画が可能と考えます。

井手 慎司 IDE Shinji

環境科学部環境政策・計画学科 教授



専門分野：水環境管理

キーワード：琵琶湖，水質，生態系，景観，住民参加

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の最大の関心事は、かつての美しかった琵琶湖をどのようにすれば取り戻せるか、という点にあります。そのための研究としては、琵琶湖やその周辺地域の水環境や景観を守るために行われてきた住民運動の歴史や、干拓で消えてしまった内湖の当時の様子などを調査してきました。環境を再生・保全するための計画の策定や実施の段階において、いかに意味のある住民参加を実現できるかにも強い関心を持っています。そのため調査研究の傍ら、滋賀県内の関連する各種計画の策定や推進に携わるとともに、その実現に向けて人と人、活動と活動をつなぐ実践的な活動にもこれまで取り組んできました。



専門分野：環境法・環境政策

キーワード：自然環境保全制度，外来水生植物管理制度，地球環境条約制度

地域連携・産学連携・地域活動について：

琵琶湖沿岸で問題になっている水陸両生の外来植物オオバナミズキンバイなどの管理体制・制度について、県・市の方々と協力しながら研究しています。具体的には、日仏英の三か国比較研究をおこなっています。そのため、29年度、30年度、琵琶湖博物館にご協力いただいて、同博物館で、「水陸両生の侵略的外来植物の管理に関するワークショップ」を開催しました。

もともとの専門は、地球環境条約制度です。特に、それらの長期的な制度変化に関心があります。2017年度には、本学公開講座で、気候変動条約制度を題材に「生きた環境条約交渉」について、講演しました。

彦根市環境審議会と長浜市環境委員会の会長を務めています。



専門分野：森林政策・計画，環境経営

キーワード：森林認証，水源林，環境支払い，環境マネジメントシステム，環境マーケティング

地域連携・産学連携・地域活動について：

林業の主産地ではない滋賀での森林と社会とのつながりのあり方を考えています。そのため、木材だけでなく森林の環境機能を「売る」ための手法、たとえば森林認証、地域コミュニティによる管理、下流からの環境支払いを事例として研究してきました。企業、組織の本業に環境配慮を組み込む方法として、環境マネジメントシステム、環境マーケティングについても注目しております。研究では、アンケート、事例研究などの社会調査、シミュレーションなどの手法を利用します。また、滋賀県独自のCSR—近江商人の「三方よし」についても関心を持ち、実務家の方と顕彰活動を進めております。



専門分野：環境地理学，都市社会地理学

キーワード：公害反対運動，地域住民，地域環境問題，工業都市，沿岸域

地域連携・産学連携・地域活動について：

日本の工業都市において発生した公害問題に対して、地域住民がどのように対応してきたかという問題意識から、公害反対運動を中心に事例研究を進めてきました。滋賀県や琵琶湖では極端な公害問題は発生していませんが、身近な地域や日常生活において関心をもたれる環境問題を取り上げて、積極的に活動に取り組む人々に調査をしています。最近ラムサール条約湿地の調査に関わっていることから、沿岸域の漁業者や農業者がどのように環境問題に対応してきたかを調べつつあります。さまざまな時代や現場で環境問題を研究してきたことから、地域の人々による環境問題への取組に貢献できます。

瀧 健太郎 TAKI Kentaro

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



専門分野：流域政策・計画

キーワード：水工学，自然災害科学・防災学，土木環境システム

地域連携・産学連携・地域活動について：

川の日（7月7日）生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務（18年間）ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した。数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。

現在は、流域の水循環と社会システムとの相互関係に着目し、持続可能な流域社会の実現に向けた政策や計画に関する研究を進めている。流域政策・計画に関する学問分野の体系化を目指す。

林 幸司 HAYASHI Tadashi

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



専門分野：環境経済学

キーワード：貿易と環境，地球温暖化，気候変動

地域連携・産学連携・地域活動について：

国境を超える環境問題について研究してきましたが、地域における環境対策が自発的に進められるような経済的なインセンティブの仕組み作りについても協力・連携が可能です。環境政策の応用分析として、再生可能エネルギーの普及策、有機野菜・減農薬野菜の流通促進、外来植物の駆除や生態系の保全、パーク・アンド・ライド交通政策などにも関心がありますので、これらについてもご協力できるかと思えます。

村上 一真 MURAKAMI Kazuma

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



専門分野：環境経済学，開発経済学，行動経済学

キーワード：環境配慮行動，サプライチェーンマネジメント，グリーンイノベーション，地球温暖化抑制，社会実験

地域連携・産学連携・地域活動について：

環境問題解決に係る行動経済学として、「インセンティブ情報」×「他者との関わり・ネットワーク」の相乗効果を狙う手法・技術と、その社会実装の仕組みを研究しています。個人の環境配慮行動の意思決定プロセスの解明、グリーン&レジリエントなサプライチェーン構築の検討などを通じ、地球温暖化に係るパリ協定や電力小売市場の全面自由化、森林の過剰利用解消に関する政策やビジネスのあり方を考えています。

和田 有朗 WADA Nariaki

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



専門分野：環境計画, 環境政策

キーワード：環境意識, 環境配慮行動, 小型家電リサイクル, エネルギー教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は今まで環境に配慮したまちづくり、地域づくりを目指して、都市、地域での環境フィールド調査を中心に生活環境、人の環境に対する認識と行動、利用者意識の評価の研究をしてきました。

持続可能な社会を目指し、人々の環境に対する意識の向上と環境配慮行動の促進、そのための環境教育などについて考えています。

平岡 俊一 HIRAOKA Shunichi

環境科学部環境政策・計画学科 助教



専門分野：環境ガバナンス、市民参加・協働、社会学

キーワード：持続可能な地域づくり, 市民参加・協働, NPO, 中間支援組織, 地域エネルギー政策

地域連携・産学連携・地域活動について：

地域社会の活性化に貢献できる環境保全活動・政策（持続可能な地域づくり）に関心をもち、その推進を支える組織や人材、支援制度などの「社会的基盤」の整備について研究を行っています。具体的には、取り組みの重要な担い手と期待されるNPO/NGOや社会的企業、中間支援組織（ローカルシンクタンク）の機能・体制の強化、地域の多様な主体が参画、連携した「地域協働型」の活動・政策を促進する仕組みづくり、などに注目しています。NPO職員・役員としての実務経験を活かしながら、自らも地域での実際の活動・政策等に関与しながら調査を行う「参与観察調査」を国内各地で実施しています。

平山 奈央子 HIRAYAMA Naoko

環境科学部環境政策・計画学科 助教



専門分野：湖沼政策学

キーワード：政策過程論, 参加型流域評価, 連携・協働, 市民参加

地域連携・産学連携・地域活動について：

琵琶湖の環境は流域内の様々な活動の影響を直接的に受けるため、多様な主体が環境保全に参加する必要があります。また、市民活動団体や企業、行政など多様な主体が連携することで効率的かつ継続的な活動になります。一方、活動や政策による成果のとりまとめや課題の抽出など、評価プロセスに市民が参加することも重要な事です。

これまでの活動経験から、保全活動を行う組織が連携するためのコーディネート（調整）をお手伝いすることができます。また、ワークショップなどの場において、地域の方の考え方や価値観を踏まえた評価を把握し、政策につなげる取り組みをしたいと考えています。



専門分野：エネルギーシステム学

キーワード：エネルギーシステム, シミュレーション分析, 電力システムモデル, 電力需要, 要因分解

地域連携・産学連携・地域活動について：

専門はエネルギーシステム学です。国や地域のエネルギー・環境政策の検討を支援できるような定量的な分析をしています。具体的には、地域特性を踏まえた気候変動緩和策の検討材料を提供するため、環境面・経済面を複合的に考慮可能な数理モデルによるエネルギーシステム分析を行っています。また、家庭の電力消費量の計測データやアンケート調査の結果を元に、家庭部門の省エネを推進する方策を検討するための分析なども行っています。

環境科学部

環境建築デザイン学科

陶器 浩一 TOKI Hirokazu

環境科学部環境建築デザイン学科 教授



専門分野：建築構造

キーワード：構造計画, 構法, 竹構造, ものづくり, 建築設計

地域連携・産学連携・地域活動について：

「築くことは生きること」ものづくり（築くこと）を通じて、地域・場所を再生し、元気にする活動を行っています。地域に生育する竹を用いて学生たちと築いた“場”を 2 例紹介します。【竹の会所（気仙沼市）】東日本大震災で途絶えかけていた地域芸能を守るため、地域の竹 1000 本を用いて学生たちと集会所を築きました。それ以降毎年 2 回訪れて地域交流を続けています。【BAMBOO PARK（湖南省）】荒れ放題の竹林を再生するため、その場で伐った竹を用いて、林の中に“こどもの国”を築きました。自然と人との関係を見直すきっかけとなる場所です。

いずれのプロジェクトも、学生たち、地域の方々、地域の子供たちが一緒になって地域の未来づくりを目指しています。

村上 修一 MURAKAMI Shuichi

環境科学部環境建築デザイン学科 教授



専門分野：ランドスケープデザイン

キーワード：景観, 風景, 造園, 土地の履歴, グリーンインフラ

地域連携・産学連携・地域活動について：

どのような場所でも様々なことが作用し合っています。その結果として、その場所の景観（ランドスケープ）が現れます。景観の背景にある様々なことを、フィールドワークをとおして読み解き、地域の課題や可能性を掘り起こして、新たな景観や空間をデザインすることをテーマとして活動しています。



専門分野：建築構造学

キーワード：応用力学，構造最適化，構造形態創生，木質構造，耐震診断

地域連携・産学連携・地域活動について：

木造・最適化・地震防災を主要なテーマとして、解析的および実験的研究を行っています。特に木造については、木造住宅の耐震補強方法として木製面格子壁に着目し、その耐震性能を実験や解析によって明らかにする研究や、製材や木造の接合部、木造による新構法の力学性能に関する実験的研究を行っています。近年、日本では木材を積極的に利用しようとする動きがあり、これらの研究は、地域再生・地域活性化と関連させて、自治体や企業などからの委託研究・共同研究として行っています。



専門分野：建築史，建築設計理論

キーワード：建築デザイン，都市デザイン，ツーリズム，創造的歴史学

地域連携・産学連携・地域活動について：

人口縮小時代あるいは、空き家などの活用が課題となる空間ストック活用時代に、デザインができることを考えていきたいと思っています。現在の地域活動としては、滋賀県内の様々な地域で、地域に存在する様々な資源を活用した建築・都市空間の新しい活用方法を探求しています。その実践として、近江八幡市にある西の湖に生息する葦を利用して、ドーム建築を設計・建設するなどして、市内のパブリック・スペースの再生を試みています。また、新たな空間デザインの可能性を探るため、過去の建築・都市デザインを歴史的に考察し、現代的な手法を考える探求も行っています。



専門分野：建築デザイン

キーワード：建築設計，環境建築，建築デザイン，サステイナブルデザイン，パッシブデザイン

地域連携・産学連携・地域活動について：

場所固有の建築デザインについて研究を行っています。地域ごとに異なる環境、歴史や文化をリサーチし、それらを汲み取りながら現代的に継承・発展するための設計・デザイン方法論の研究です。また自然環境と人間との接点を建築によっていかにつくるか日々考えています。ヨシや流木、土など地域の自然素材を用いた新しい建築デザインの研究も行っています。

金子 尚志

KANEKO Naoshi

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：建築環境デザイン

キーワード：環境共生, 地域環境, 自然エネルギー, サステイナブルデザイン, クリマデザイン

地域連携・産学連携・地域活動について：

建築環境工学的視点を軸に、身の回りにある様々な環境要素と建築・都市の結びつきをとらえることから、環境と応答する建築と都市のあり方を研究しています。建築の姿・形をつくる原理を読み解き、現代の社会にふさわしい地域の自然環境や歴史の特徴をとらえた意匠、そのポテンシャルを活かすためのエンジニアリング、それらを高度に統合させたデザインを探っていきます。

ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン

JIMENEZ VERDEJO Juan Ramon

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：建築史・意匠, 都市計画・建築計画

キーワード：建築・歴史, スペイン植民地都市, 都市再生, 遺産修復保存

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は、都市と建築計画、建築の歴史と意匠です。特に、中南米と東南アジアのスペイン植民地都市の起源、形成、変容の研究が大きなテーマです。また、災害、震災後の都市とコミュニティの再生、復興を目指し、現在フィリピンのタクロバン市の住宅再生とセブ島とボホール島の遺産修復保存を進めています。

轟 慎一

TODOROKI Shinichi

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：都市計画, 農村計画, 地域計画, 生活空間論, まちづくり

キーワード：都市計画, 農村計画, 地域計画, 生活空間論, まちづくり

地域連携・産学連携・地域活動について：

都市・集落の空間・コミュニティ・環境の構造と、その計画論・まちづくりについて探求しており、特に、生活と空間の関係性に着目した計画論的研究を行っています。具体的には、「生活史・生業史と空間構造」「生活行為・コミュニティと生活空間・居住環境」「境界空間からみた公・共・私」「地域環境と生活景」「景観の保全・活用」「地域共生とまちづくり」「都市計画システムと事業展開」「人口減少時代の都市・地方と少子高齢社会」「定住環境としての中心市街地・歴史的街区・集合住宅・郊外住宅地・農山漁村」「地域居住と持続・再生」などをテーマとしています。

山崎 泰寛

YAMASAKI Yasuhiro

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：建築メディア論

キーワード：建築・デザインの展覧会，キュレーター，近代建築史，デザイン史

地域連携・産学連携・地域活動について：

私はメディアを通じて、社会の中で、建築がどのように理解されてきたのかを研究しています。「名建築」として知られる建築物であっても、足を運びにくい場所にあるものは少なくありません。ですから、多くの建築は写真や文章に形を変え、展覧会や雑誌を通じて影響力を高めてきました。地域の遺産である建築物であっても、伝達方法によって市民の愛着や理解度は変わります。より魅力的な伝え方を一緒に考えることで、地域に貢献できればと思います。

川井 操

KAWAI Misao

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：都市・建築計画

キーワード：建築計画，アーキテクトビルダー，アジア都市史，地域計画，建築設計

地域連携・産学連携・地域活動について：

これまでにフィールドサーヴェイによるアジアの都市組織研究を行ってきました。その土地の歴史の変遷、都市環境問題、コミュニティの構成、建築類型をリサーチし、大規模開発によらない持続的都市建築のあり方を考えます。

一方で、滋賀県を舞台にして、空き家や人口減少問題に対応するデザインビルドを実践します。このようにグローバルとローカルの問題を同じ位相で扱い、細分化された専門性に偏ることのない実践教育とタウンアーキテクト像「多能工的職能 Multi-Skill Development」を目指します。

伊丹 清

ITAMI Kiyoshi

環境科学部環境建築デザイン学科 講師



専門分野：建築環境工学，建築設備

キーワード：建物伝熱性状，外皮，開口部，断熱性能，日射熱取得性能

地域連携・産学連携・地域活動について：

建物開口部の省エネルギー性能の計算法について研究を行っています。また、それら性能の計算ツール開発や評価法の標準化に関わってきています。

複雑な断面形状をもつ窓フレームの断熱性能・日射熱取得性能を、モデル化して計算するツールTB2D/BEMを開発してきました。これは窓フレームの性能値を計算法JIS(A 2102~3)に適合する方法で計算できます。窓の総合熱性能評価プログラム(WindEye by ALIA)のデータベース登録用に多くのメーカーで利用されています。

迫田 正美

SAKOTA Masami

環境科学部環境建築デザイン学科 講師



専門分野：建築空間論，環境行動論，作品論

キーワード：デザイン史，人の行動と環境，芸術と建築，科学・思想と建築，物語に表現された空間

地域連携・産学連携・地域活動について：

一個の生命体としてのヒトの生活行動と建築の空間性の発現の問題を中心に、建築の効用性と芸術性、安全性という、建築が基本的に備えていなければいけない課題について、総合的な建築理論として研究しています。芸術や心理学、行動や解釈学、芸術と科学・思想の歴史、生命システム論と認知科学など、幅広い分野が関連する分野になります。風景学や地域論とも関連していますので、地域づくりに関するアドバイスや芸術と建築などのテーマで出前講義などを行うことができます。

永井 拓生

NAGAI Takuo

環境科学部環境建築デザイン学科 助教



専門分野：建築構造

キーワード：構造設計，素材，工法，コンピューテーション，デジタルデザイン

地域連携・産学連携・地域活動について：

- ・地域が求める建築、空間、の設計案・計画案の作成協力、提案を行います。
- ・地域のオリジナルな素材、遊休資源等を活用した建築、空間デザイン、素材開発の協力、提案を行います。
- ・林業と木造建築、木質素材の一体化に関する研究、開発を協力します。

環境科学部

生物資源管理学科

鈴木 一実 SUZUKI Kazumi

環境科学部生物資源管理学科 教授



専門分野：植物病理学，作物保護学

キーワード：植物病原菌，病原性発現機構，病原性関連遺伝子，宿主抵抗性，殺菌剤の作用機構

地域連携・産学連携・地域活動について：

地域連携：現在フィールドワークで滋賀県内の農家圃場での病害の調査、観察や滋賀県内の民間研究機関の見学などを実施しています。

産学連携：滋賀県内の農薬メーカーと連携して受託研究を実施しています。

地域活動：滋賀県内の大学、公的研究機関、民間企業の植物病理関係の研究者とのネットワークを構築し、定期的に勉強会や講演会を開催しています。

大久保 卓也 OKUBO Takuya

環境科学部生物資源管理学科 教授



専門分野：環境工学，生態工学，水質科学

キーワード：水質，琵琶湖，河川，水田，在来魚

地域連携・産学連携・地域活動について：

琵琶湖や各地域の河川、水路の水環境や在来魚の保全に向けて、住民、行政、企業の方々と協力して取り組んでいければと考えています。もともとの専門は水質ですが、最近は、在来魚の復活のためにどのような対策を行えばよいか研究を進めています。その他に、河川における瀬涸れ（水が途切れてしまう現象）に関する研究、水田での窒素、リンの動きに関する研究、農業濁水に関する研究、琵琶湖の貧栄養化に関する研究、道路の凍結防止剤の河川水質への影響に関する研究などを行っています。



専門分野：環境化学

キーワード：農薬，水質，微量化学物質，環境動態，流出メカニズム

地域連携・産学連携・地域活動について：

農薬は農産物の生産性向上や労働力軽減のために、これからの農業にも必要不可欠です。その一方、農地に散布された農薬が河川や琵琶湖に流出・残留し、生態系に影響を与えるのではという懸念がもたれています。農薬の環境リスクは、農薬の毒性と環境への流出性の2つの側面で評価する必要がありますが、須戸研究室ではこのうち環境への流出性について、滋賀県内の多くのフィールド調査・研究を行っています。研究の成果から、農薬の水環境に対するリスクを可能な限り小さくする方法を模索し、地域の農業と水環境の保全に貢献したいと考えています。



専門分野：水産学，水産養殖，養魚飼料

キーワード：水産，魚類，養殖，飼料，リン

地域連携・産学連携・地域活動について：

魚の飼育～養殖に携わって50年、特に飼料（えさ）の開発研究では35年の実績があります。養殖経験（現場）は、ニジマス、ウナギ、コイ、テラピア、アメリカナマズ、マダイなど。飼育経験（研究、実験、趣味を含む）は約200種です。日本最大の養鱒場（富士宮）では3年余り養殖現場の力仕事を担当しました。シリアでは単独の技術ボランティアとして3年間飼料開発に尽力し、現地の食料増産に貢献しました。アメリカでは12年にわたり、大学や国立の研究所で養魚飼料研究に没頭しました。近年は雑草、農業副産物等の飼料化技術を開発中です。以上に係わる分野で、実りある地域連携を希望します。



専門分野：作物学，栽培学

キーワード：イネ，雑穀，ダイズ，間混作，湿害対策

地域連携・産学連携・地域活動について：

ダイズについては滋賀県を含む本州では転換畑や水田裏作での栽培が大部分であり、その際に大きな問題となっている湿害を軽減するための新しい栽培技術の確立を目指しています。穀類（イネと雑穀のトウジンビエ）の研究については今のところアフリカ南部（ナミビア）での間混作の導入を目的としています。

岩間 憲治

IWAMA Kenji

環境科学部生物資源管理学科 准教授



専門分野：土壌物理学，農業農村工学

キーワード：土壌構造，土壌化学，土壌環境修復，ファイトレメディエーション，GIS

地域連携・産学連携・地域活動について：

土壌内部構造に着目して水や塩類、汚染物質の移動に関する研究から、作物と土壌環境、乾燥地における節水灌漑や塩類集積問題などに広がってきました。その流れから、これまで高アルカリ土壌の周辺環境への影響や、廃棄瓦破碎物の地盤材・農業排水浄化材への再利用などについて、地域の企業とともに共同研究を進めてきました。一方、タイ東北部の農業生産状況や琵琶湖集水域の水路網の魚類や生態環境に関して、GIS(地理情報システム)を用いて分析してきました。

以上より、土壌関係、地域情報の地図化や面的評価に関して、お手伝いできると思います。

原田 英美子

HARADA Emiko

環境科学部生物資源管理学科 准教授



専門分野：植物科学

キーワード：重金属集積植物，水生植物，石灰岩土壌，金属分析，DNA バーコーディング

地域連携・産学連携・地域活動について：

重金属を集積する能力を持つ植物は現在世界中で約 500 種類が知られています。このような植物は、金属で汚染された土壌を浄化したり、役に立つ金属を効率的に回収したりする新しい技術の開発に利用できると考えられます。本研究室では、植物の重金属集積性をキーワードとし、琵琶湖水圏に特徴的な植物の性質を調べています。特に、琵琶湖の水生植物の有効利用法の開発、伊吹山に代表される石灰岩土壌に育つ植物の調査、重金属集積性の絶滅危惧種の保全に関する研究を行っています。

上町 達也

UEMACHI Tatsuya

環境科学部生物資源管理学科 准教授



専門分野：園芸学

キーワード：園芸，花，遺伝資源，形態形成，系統分類

地域連携・産学連携・地域活動について：

研究では、DNA 配列に基づく植物の系統分類や、電子顕微鏡観察や遺伝子の発現解析による花の形態形成メカニズムの解明を行っています。また世界に広く利用されている観賞植物であり日本固有種であるアジサイについて、都市緑化植物として利用するのに適した育種素材の探索を行っています。

本学の授業（環境フィールドワーク）の一環として、学生とともに近隣の保育園において園児達と野菜の栽培を行ってきました。



専門分野：応用微生物

キーワード：遺伝子, 酵素, 木質バイオマス, 菌類, きのこと

地域連携・産学連携・地域活動について：

専門は応用微生物ですが、特にきのこに関する研究に力を入れています。きのこのなかでも白色腐朽菌と呼ばれるグループは木を単独で完全に分解できるという他の生物には無い機能をもっています。その性質を利用して刈草を飼料に変換したり、廃材から新素材を生産することを目標に研究を続けています。また、長持ちするシイタケの開発や、鮎寿司のような伝統食品に含まれる微生物の解析なども行っています。



専門分野：生態学

キーワード：野生生物, 在来種, 外来種, 害虫, 統計解析

地域連携・産学連携・地域活動について：

生態学の研究を通して、身の回りの生き物の不思議を解き明かしたり、生き物にまつわる問題を解決したりすることを目指しています。昆虫・魚類・両生類・鳥類・哺乳類・雑草などを対象に、外来種による在来種の影響や、人間活動による環境変化が生き物に及ぼす影響などを主なテーマとして研究しています。在来種の保全や有害生物の管理について、生態学的な視点からご相談に乗ることができます。また野外調査データには取扱いが難しいものが多いですが、その解析の経験を活かして、野外での調査法やデータの分析法についても助言できることがあるかもしれません。



専門分野：植物遺伝育種学

キーワード：栄養ストレス耐性, バイオインフォマティクス, QTL 解析, 全ゲノム関連解析, 遺伝子探索

地域連携・産学連携・地域活動について：

少ない肥料（主にリン）でよくとれるイネ品種の開発に向けて、近縁野生種を含む様々な遺伝資源の探索を行い、有用遺伝子の探索を行っています。有望系統は、滋賀県の良食味品種みずかがみ等への導入を進めています。最近では、リン肥料だけでなく農薬などの投入資源も節約できるイネの機能に着目した研究を、滋賀県農業技術振興センターの協力の下で行っています。

増田 清敬

MASUDA Kiyotaka

環境科学部生物資源管理学科 准教授

専門分野：環境経済学，農業経済学

キーワード：環境保全型農業，環境効率，地球温暖化

地域連携・産学連携・地域活動について：

滋賀県の環境こだわり農業（減農薬減化学肥料栽培）を事例として、環境への影響を最小にしつつ、農業所得を最大にするような環境保全型農業を推進するためには、どのような農業環境政策が有効なのかを研究しています。



飯村 康夫

IIMURA Yasuo

環境科学部生物資源管理学科 助教

専門分野：土壌化学

キーワード：土壌，有機物，物質循環，地球温暖化，バイオ炭

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は土が自然（生態系）の中でどのような働きを担っているのかを科学的に明らかにし、我々の生活に土を活用する術を探求することです。現在取り組んでいる二酸化炭素などの温室効果ガスがなるべく出ない持続的な肥沃土づくりに関する研究は、これからの地域農業に多少なりとも貢献できる研究だと考えております。



畑 直樹

HATA Naoki

環境科学部生物資源管理学科 助教

専門分野：蔬菜園芸学，植物工場

キーワード：養液栽培，低環境負荷，機能性成分，地域伝統野菜，連続光

地域連携・産学連携・地域活動について：

蔬菜園芸学は野菜の発育、環境応答などの生物学的特性を明らかにし、野菜を安定生産するための種苗生産や栽培技術の開発、品種改良などを行う学問分野です。珍しい（地域伝統野菜や新野菜）、健康に良い（機能性成分やミネラル分が多い、有害成分が少ない）、食味が良い（糖度が高い）などの高付加価値野菜の生産や、低環境負荷型の野菜生産について、養液栽培技術や環境調節技術（特に連続光の利用）の観点から研究しています。



泉津 弘佑

IZUMITSU Kosuke

環境科学部生物資源管理学科 助教

専門分野：微生物分子遺伝学，植物病理学，農薬科学

キーワード：植物病原菌，菌根共生菌，殺菌剤，分子遺伝学

地域連携・産学連携・地域活動について：

トウモロコシごま葉枯病や灰色かび病、ウリ類炭疽病などの植物病原糸状菌類がどのような仕組みで病気を引き起こすのかについて分子遺伝学的手法を用いて研究しています。またこれらの病原菌を防除するための殺菌剤の作用機構および耐性化機構についても調べています。近年は、植物と共生する外生菌根菌の1種であるホンシメジの菌根共生メカニズムの研究にも取り組んでいます。



皆川 明子

MINAGAWA Akiko

環境科学部生物資源管理学科 助教

専門分野：農村生態工学

キーワード：水田，農業水路，水管理，生態系

地域連携・産学連携・地域活動について：

水田や水路には様々な生物が生息しています。水田や水路は農業のための施設ですから、生物の保全を考える上で農家や地域住民の協力が欠かせません。農家の水田にお邪魔して、どのような生物が、いつ、どのように水田や水路を利用しているのかを調べ、それを保全のための施設設計や水管理手法に活かす研究をしています。また、保全のために作られた施設がねらい通りに機能しているかを評価し、改善すべき点を明らかにする研究にも取り組んでいます。6～8月には水田や水路の生物を観察する会が多く開催されるので、県内外の観察会に足を運び、農業と生物の関係について知ってもらおう活動を行っています。



中川 敏法

NAKAGAWA Toshinori

環境科学部生物資源管理学科 助教

専門分野：家畜生産学，家畜飼養学，飼料開発・分析

キーワード：反芻家畜，消化試験，動物行動調査，飼料成分，未利用資源

地域連携・産学連携・地域活動について：

ウシ・ヤギ・ヒツジなどの、いわゆる反芻家畜は、我々ヒトやブタ・ニワトリなどと異なり4つの胃を持っています。この特殊な消化機構により、我々が利用できない牧草などの繊維質を消化・吸収し、乳・肉・毛皮などの有用なタンパク質に変えてくれます。しかしながら、集約化が進みすぎた結果、環境への負荷が問題となっています。そこで、地域に存在する未利用資源を飼料として積極的に活用することで、環境にやさしい、地域循環型・持続型畜産の確立を目指しています。



工学部 材料科学科

バラチャンドラン ジャヤデワン Balachandran JEYADEVAN

工学部材料科学科 教授



専門分野：材料科学

キーワード：機能性ナノ材料, 金属ナノ粒子, 磁性ナノ粒子, 導電性ナノ粒子・ナノワイヤ, 触媒ナノ粒子

地域連携・産学連携・地域活動について：

金属および合金ナノ材料合成技術、表面改質技術（金属、非酸化被覆膜）および分散技術開発を行っています。また、得られた金属ナノ材料の工学・医学応用を目指した基盤研究に取り組んでいます。例えば、プリントエレクトロニクス開発を目指した銀ナノ粒子分散インクの開発や透明電極代替材料および熱伝導材料としての銀ナノワイヤの開発において産学間で連携し取り組んでいます。

【例1】無機材料合成、表面処理、分散液作製などに関する技術協力・アドバイスが可能です。

【例2】無機ナノ材料の物質同定、表面および形状解析などの分析において支援、アドバイスが可能です。

【例3】産業廃棄物質のリサイクル技術開発に関するアドバイスが可能です。

松岡 純 MATSUOKA Jun

工学部材料科学科 教授



専門分野：無機材料科学

キーワード：ガラス, 高温物性, 破壊, セラミックス, 電子部品

地域連携・産学連携・地域活動について：

ガラスは様々な元素を溶かし込める性質を持ち、その比率を変えることで、一台の携帯端末には30種以上のガラスが使われています。そこで「知の探究と具象化」をモットーに、高温で融けているガラスの性質と、ガラスがなぜ割れるかを、その構造と関連付けて研究しています。これらの研究には、20世紀の物理学では解明できなかった「ランダム系」、「非平衡」、「協同現象」、「表面」という4つのキーワードが関連しています。また、元素を変えると性質がどう変わるかを考えるには「化学」の眼が必要です。基礎的だが社会に役立つ研究として、幾つもの会社などと一緒に研究を行っています。



専門分野：高分子材料，プラスチック成形加工，複合材料

キーワード：高分子物性，レオロジー，成形加工，劣化と耐久性，高分子ブレンド

地域連携・産学連携・地域活動について：

私たちの身の回りには、多くのプラスチック製品が使われていますが、それらは“ドロドロに溶かしてから型に流して成形する”という方法をとっています。私たちの研究は、その「流れ（粘性）」や「硬さ（弾性）」などのプラスチック製品の物性を、自由にコントロールするための基礎研究です。また、これからの循環型社会を目指すためには、プラスチックのリサイクル技術が重要であり、そのための取組を学生主体の近江楽座チーム「廃棄物バスターズ」で実施しています。

【主たるテーマ】セルロースナノファイバーを用いた革新的軽量化部材の開発（滋賀県と共同研究）／ポリシランを用いた各種高分子の融着特性向上化研究（民間企業と共同研究）など他多数



専門分野：エネルギー材料科学

キーワード：光，エネルギー，太陽電池，量子情報，原子配列

地域連携・産学連携・地域活動について：

従来のシリコン系太陽電池に代わる、安価で環境にも配慮した環境調和型次世代太陽電池の研究開発を行っています。高効率発電を目指すとともに、その原子配列や発電機構を調べています。具体的には、ペロブスカイト化合物・フラーレンや球状シリコン・酸化チタン・量子ドットなどのナノ構造を用いて、新しいタイプの太陽電池デバイス材料の研究開発を進めています。太陽電池材料等に関して、地域企業様との共同研究も実施させていただいております。



専門分野：高分子合成，機能性高分子

キーワード：高分子，繊維，機能性材料，分岐ポリマー，反応制御

地域連携・産学連携・地域活動について：

プラスチック、繊維などの高分子材料は、無機材料との高度な複合化により、さらなる高機能材料に向けた開発が行われています。また、持続可能な開発の観点から、従来の大量生産・大量消費ではなく、高度な機能を有する材料を必要なだけ高効率で作ることが重要です。そこで、高度に制御された重合反応を用いて新しい機能性高分子材料を作り出す研究をしています。最新の機能性高分子材料、高分子材料の設計・合成の基礎に関する講演、ご相談を受けることが可能です。



専門分野：有機化学

キーワード：有機合成，分子，芳香族炭化水素，色素

地域連携・産学連携・地域活動について：

身近に豊富に存在する「炭素」は、炭素や水素をはじめとする他の元素と結合を作りやすく、分子を形成します。有機合成のおもしろさは、いろいろな薬品を混ぜて、今まで地球上に存在していなかった新しい分子を造り出すことにあります。この分子は小さすぎて目で見ることができませんが、最新の分析機器や描画ソフトウェアを使えば、あたかも目の前に分子があるかのように見たり、扱ったりすることができます。どのような分子がどういう性質を示すかや、専門とする光物性について講演や出前講義を行うことができます。



専門分野：金属材料学

キーワード：水素吸蔵合金，電池材料，結晶構造解析，窒化物，非平衡相

地域連携・産学連携・地域活動について：

エネルギー貯蔵媒体としての水素吸蔵合金の応用・開発および金属の表面処理について研究を行っています。滋賀県は太陽光などの自然エネルギー資源が豊富であり、現在の研究をこれらの有効利用につなげることができれば…と考えています。表面処理に関しては、とくに窒化物合成を中心に、電気化学と組み合わせた新規合成手法について検討しております。また「研究テーマ」というほどではないのですが、ネットワークコンピュータを使った機器制御や遠隔計測等も実践しており、これらの技術を総合したエネルギー貯蔵・利用のコンパクトなモデルを構築してみたいと考えています。



専門分野：高分子構造，高分子物性

キーワード：プラスチック，高分子ブレンド，結晶性高分子，液晶，ゲル

地域連携・産学連携・地域活動について：

プラスチック、繊維、ゴムをはじめとする高分子材料は、化学的に同じ成分から構成されていても、かけられた熱の履歴や成形方法により性質が大きく変化する特徴を持っています。また、身のまわりにある高分子材料は単一の成分から成るものは少なく、複数種類の高分子を巧みに組み合わせることで高度な性能や機能を発揮しています。

私は、高分子材料のミクロな構造をナノメートルからミリメートルの幅広い範囲で制御することにより、新たな特徴を持つ材料を目指しています。

プラスチック、繊維、ゴム等の高分子材料の材料選択や成形加工について相談に乗ることが可能です。



専門分野：機能物性化学，デバイス関連化学

キーワード：フラーレン，導電性高分子，ナノ粒子，太陽電池，光触媒

地域連携・産学連携・地域活動について：

光電変換の技術は、太陽電池、撮像素子、光センサーなどに応用されています。私は、次世代の太陽電池材料の開発を化学の立場から進めています。

具体的には、「有機半導体としてのフラーレン誘導体・ポリチオフェン膜」、「光エネルギーを濃縮する金・銀ナノ粒子の開発」、「電子輸送・光触媒・光学材料としての酸化チタン超薄膜」の開発を行っています。また、太陽電池を活用する場として、「エネルギーのその場生産・その場消費」「再生可能エネルギーで加速する農業」「再生可能エネルギーの D.I.Y」に興味を持っています。

以上の活動に関連する「光電変換材料」「太陽光発電の概要とその将来」に関する講義や相談をお受けすることができます。



専門分野：ガラス科学

キーワード：ガラス，破壊，強度，ガラス融体

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究テーマの一つは、ガラスの破壊現象です。ガラスは脆（もろ）く壊れやすいため、その脆さを克服し壊れにくいガラス材料の開発が求められています。これまで、ガラスの種類やガラスへの力の加え方により、ガラスの壊れやすさが異なることを明らかにしてきました。このような基礎的な研究は、新製品の開発と直接結びつくことは無いかもしれませんが、系統的なデータの蓄積が様々な破壊現象の理解を助けると思っています。ガラス研究で得た知見は、魅力あるガラス材料を科学的な視点で紹介する活動や、ガラスの破壊でお困りの方への対応などに生かすことができます。



専門分野：高分子界面科学

キーワード：微粒子，表面界面，天然高分子，マイクロカプセル，金属イオン捕集

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の専門分野は「高分子界面科学」です。材料としては高分子を対象とし、現象としては材料の表面界面で起こる出来事を対象とし、研究を行っています。主な研究対象はナノメートルからマイクロメートルの微粒子です。最近、キチン・キトサンなど天然由来の多糖に興味を持っています。

「微粒子材料の設計」「材料の表面処理」「水溶液からの物質吸着除去」などの話題について、素材の選び方・作り方からアイデア出しまで、企業の方のご相談に乗った経験があります。



専門分野：構造有機化学

キーワード：有機合成，芳香族化合物，複素芳香族化合物，超分子材料，蛍光材料

地域連携・産学連携・地域活動について：

芳香環が連結および縮合した有機化合物は、有機 EL や太陽電池などのデバイスの材料として、私たちの身の回りに偏在しています。デバイスの性能を向上させるには、優れた有機材料を作ることが不可欠です。

望みの有機化合物を思い描くことができても、実際に作る事ができなければ、絵に描いた餅です。精密有機合成という手法を駆使して有機化合物を作り、その構造や性質を調べて、材料設計に有用な情報を導き出すという研究に従事しています。その経験から、どのような化合物が所望の性質をもつか、またどのように化合物を作ればよいか等の疑問にご支援ができます。



専門分野：有機・無機ハイブリッド系太陽電池，量子コンピューター

キーワード：ペロブスカイト系太陽電池，エネルギー変換材料，第一原理計算

地域連携・産学連携・地域活動について：

革新的性能を有する環境調和型太陽電池の開発が求められています。我々は再生可能エネルギーに関連する新世代型高性能有機-無機ハイブリッド系太陽電池の研究・開発を行っています。第一原理計算を用いた太陽電池の材料設計を行い、光起電力特性評価、表面形態観察や結晶構造解析を行いながら性能向上と実用化を目指しています。地域への分散型再生可能エネルギーの普及と太陽光発電システムの協力支援を行い、新しい地域モデルを創造し、地域の活性化を目指しています。県内高校の高大連携による講義・実験を行いながら、太陽電池の面白さを広めています。



専門分野：生物有機化学，応用微生物学

キーワード：生体機能材料，ペプチド，酵素，脂質，発酵

地域連携・産学連携・地域活動について：

生物由来の機能性有機材料（ペプチド、酵素、脂質など）の生産、構造解析、また機能性の評価と改変を行っています。

これまで滋賀県下の土壌・水系に生息する微生物から発酵法により生産したアミノ酸ポリマーが、優れた抗菌活性や水質浄化能を示すことを明らかにしました。また、自然環境に負荷を与えるような種々の合成エステル類に対して、高い分解能を示す微生物酵素を見出し、その触媒メカニズムを新たに提案してきました。これら「生体分子が関わる現象を化学の言葉で説明する」ことを目指した研究・教育を実践するとともに、生命現象が関わるモノづくりに貢献したいと考えています。

伊田 翔平

IDA Shohei

工学部材料科学科 助教



専門分野：高分子精密合成，ゲル化学

キーワード：高分子ゲル，高分子合成，精密ラジカル重合，機能性高分子，刺激応答性材料

地域連携・産学連携・地域活動について：

機能性高分子の合成、特に外部刺激に応答する高分子ゲルに関する化学を専門としています。繊維やプラスチックに代表される様々な高分子材料をさらに高機能化するために新しい構造や機能を持つ高分子を創り出すことが重要です。我々は精密重合技術を駆使して、そのような「新しい高分子材料の創出」を目指しています。そのため、様々な高分子材料の合成の仕方や性質の評価についてご相談に乗ることができます。

鈴木 一正

SUZUKI Kazumasa

工学部材料科学科 助教



専門分野：無機化学

キーワード：ゾルゲル，液相プロセス，有機-無機ハイブリッド，金属酸化物，カーボンドット

地域連携・産学連携・地域活動について：

カーボンドットと呼ばれる新規蛍光材料を用いた固体蛍光材料や、金属酸化物のナノ結晶について研究しています。溶液プロセスで合成することで、低コストかつ機能性に優れた材料の開発を行っています。応用例として、ディスプレイや固体レーザーなどの蛍光材料、メモリや圧電素子などの強誘電体材料、酸化物の磁性材料などが挙げられます。これらの材料開発に関する共同研究や技術相談を行っています。

また、無機化学の溶液プロセスについて、特にゾル-ゲル反応の基礎から応用までお話しすることができます。実際に県内企業へのシーズ発表やミニ講義、県内高校への高大連携講座などの活動を行っています。

工学部 機械システム工学科

安田 寿彦 YASUDA Toshihiko

工学部機械システム工学科 教授



専門分野：メカトロニクス

キーワード：福祉ロボット，障がい児用電動移動支援機器，自立支援型移乗介助ロボット，看護・介護動作改善システム

地域連携・産学連携・地域活動について：

ハンディキャップのために自力移動ができない子ども達に、1才になる前から、自力移動を実現する電動移動支援機器を開発しています。移動支援機器を滋賀県のリハビリテーション施設で使用し、子ども達の心身の発達を支援しています。さらに、滋賀県の理学療法士の方々と Kids Loco Project を発足させて、製作ワークショップなどを開催して、電動移動支援機器の普及活動も実施しています。

南川 久人 MINAGAWA Hisato

工学部機械システム工学科 教授



専門分野：流体工学、混相流工学

キーワード：混相流，マイクロバブル，ファインバブル，野菜の水耕栽培，発生装置

地域連携・産学連携・地域活動について：

流体の中でも、気相と液相が混合する混相流、特に気泡を中心に研究しています。非常に小さい気泡として知られるマイクロバブル（ファインバブルとも呼ばれる）は、そのさまざまな人間の役に立つ性質（生物の生理活性作用、水質浄化、洗浄能力、物質移動能力、機械加工面の平準化等）が知られているので、大変注目されています。そこで、現在はマイクロバブルを作る装置を開発し、マイクロバブルによる葉物野菜の水耕栽培への影響について研究しています。地域の方で、マイクロバブルを使って何か面白いことができないか、あるいは何かを改善したい、などのご要望があれば、相談に応じたいと思います。



専門分野：ライフサイクル工学

キーワード：ライフサイクル設計，環境配慮型製品，メンテナンス，設計・製造パラメータのロバスト化

地域連携・産学連携・地域活動について：

自動車、家電製品、スマートフォンなど工場で生産される製品（一般に工業製品と言います）は、使い始めてから年月が経過すると壊れて動かなくなったり、さらに魅力的な新製品が発売されたりします。このとき、今現在使用している製品を廃棄するのではなく、製品そのものをリユース・リサイクル（中古車、リサイクルショップ）したり、廃棄した製品に組み込まれている様々な部品をリユース・リサイクルしたりすると、地球資源とエネルギーの消費（環境負荷）が抑えられます。私は、工業製品をどのように設計・製造・リユース・リサイクルすれば環境負荷が低減できるかをテーマに研究を行っています。



専門分野：数学

キーワード：偏微分方程式論，スペクトル・散乱理論

地域連携・産学連携・地域活動について：

波動伝播に対する数学的散乱理論を研究テーマとしています(とりわけ最近は透過・屈折を伴う波動伝播に興味・関心を持っています)。数学的散乱理論とは、原子や障害物など(散乱体という)に向けて電子や音波を入射したときに散乱体によって発生する波(散乱波)の様子から散乱体を研究する物理学における散乱理論の数学的定式化です。研究対象の基となる現象は、日常の出来事で例えることができます。また、研究手法の根幹をなすのが微積分です。以上のような研究を進めてきた経験に基づいて、微積分の初歩を用いて、日常で体感したことがある現象(特に熱伝導と波動伝播)を数学的に語る機会があればと考えています。



専門分野：振動工学，計算力学

キーワード：CAE，振動抑制，共振，最適設計，軽量化設計

地域連携・産学連携・地域活動について：

機械の高速化や軽量化に伴い、部品・構造の強度や剛性の不足、振動など問題が発生しやすくなっています。これらの問題を対処するには、実験的手法に加え、近年発達してきた計算機シミュレーションによる設計の検討、さらに最適設計が有効です。

現在まで主に機械部品・構造の最適設計に関する研究をしてきました。設計対象とする物体の使用状況をもとに数値モデルを作成し、計算機による数値シミュレーションを行ってから、強度・剛性の最大化、軽量化、抑振などのための形状最適化を行います。振動や剛性・強度不足の原因分析や、最適設計についてアドバイス・ご協力できます。

田邊 裕貴

TANABE Hirotaka

工学部機械システム工学科 教授



専門分野：材料強度学

キーワード：破壊, 疲労, 摩耗, 表面処理, 非破壊検査

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は、軽くて丈夫な機械をつくるために必要となる「表面処理」と、長期にわたり安全に機械を使用するために必要となる「非破壊検査」の2つのテーマに分類されます。これらのテーマを中心に、産官学連携による共同研究、特に県内企業との共同研究を、これまで以上に積極的に展開したいと考えています。また、上記のテーマは社会インフラの維持管理にも必要不可欠です。皆さんの暮らしの安心と安全にも貢献したいと考えています。現在、関西の中小企業の異業種交流グループに参加しております。企業同士や企業と大学をつなぐ窓口としてお役に立ちたいと思っております。

山野 光裕

YAMANO Mitsuhiro

工学部機械システム工学科 准教授



専門分野：ロボット工学

キーワード：機械工学, メカトロニクス, ロボット制御, ロボットアーム, 人間型ロボット

地域連携・産学連携・地域活動について：

柔らかい素材を使った新しいロボットの開発や、ロボット等のコンピュータによる制御が専門です。ロボットアーム、ロボットハンド、歩行ロボット等の研究を行っていましたが、ロボット以外でも、機械やコンピュータを使った作業の自動化や人間動作の計測等についてご相談に乗ることが出来ます。

橋本 宣慶

HASHIMOTO Nobuyoshi

工学部機械システム工学科 准教授



専門分野：生産加工学

キーワード：教育訓練システム, 技能伝承, バーチャルリアリティ, ヒューマンインタフェース

地域連携・産学連携・地域活動について：

ものづくりの現場で働く人が行う作業にはコツやカンが必要ですが、それを新しく働く人に教えても、なかなか正しく伝えることはできません。そのため、コツやカンを簡単に覚えられる教育訓練システムを開発しています。このシステムは、バーチャルリアリティ技術を使うことで、危険な作業であっても実際と同じ感覚で安全に作業を体験できます。また、作業の様子をコンピュータが解析して、もっと上手くなるためのアドバイスをすることもできます。

現在、旋盤作業、溶接作業、歯科診療作業のシステムを開発していますが、人が行う作業であれば看護や福祉等への応用も可能です。

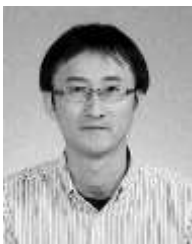


専門分野：熱工学，内燃機関

キーワード：ディーゼルエンジン，ガスエンジン，燃料，燃焼

地域連携・産学連携・地域活動について：

持続可能なエネルギーシステムの構築が求められています。私は、従来の石油系燃料に加えて、バイオ燃料やガス燃料など様々な燃料を用いた、高効率でクリーンなエンジンシステムの研究を行っています。地域のエネルギー資源やエネルギーのニーズに適したシステムの開発に貢献することができます。



専門分野：流体力学

キーワード：物体周りの流れ，流体抵抗低減，流体騒音低減，風洞実験，数値流体解析

地域連携・産学連携・地域活動について：

流体（水や空気）の流れと密接に関わる機械の性能を向上させる研究をしています。例えば、風洞を使った実験やコンピュータを使った計算により、風車などに使われる翼の性能が良くなる形を調べたり、船が作る波による抵抗を減らしたり、また、風による騒音を減らしたり、といった研究をしています。

現在、流体に関係した機器の性能向上について地元企業との共同研究も実施しており、今後も私の専門分野である流体力学を通して、積極的に地域の発展に携わりたいと考えております。また、高校生への講義や実験を通して、流体力学への興味を少しでも伝えていければと考えております。



専門分野：機械力学

キーワード：固有振動，自励振動，連成振動，騒音

地域連携・産学連携・地域活動について：

回転する円板（ディスク）の両面から摩擦材（パッド）を挟み込むように押し付けて制動するディスクブレーキは、安定した効きを発揮するブレーキとして、自動車や産業機械などに幅広く使われています。その一方で、ブレーキをかけたときに、キーという甲高い騒音、鳴きが発生することがあります。ブレーキの鳴きは、使用者だけではなく、周囲にとっても不快です。鳴きが発生するかしないか、音の高さ、音の大きさは、制動時にパッドをディスクに押し付ける力の大きさによって変化します。ブレーキの鳴きが発生するメカニズムを明らかにし、有効な鳴き対策を提案することを目指しています。

西岡 靖貴

NISHIOKA Yasutaka

工学部機械システム工学科 助教



専門分野：ソフトメカニズム，知能機械学

キーワード：ソフトアクチュエータ，空気圧システム，メカトロニクス，福祉工学，生体計測

地域連携・産学連携・地域活動について：

空気圧で動くやわらかいロボットの研究を主として実施しています。モータとは異なった、ゴムやプラスチックフィルムで構成されるソフトアクチュエータ（例えば人工筋肉の一種）の原理・特徴、およびその作り方について解説・実演などができます。現在はソフトアクチュエータを福祉機器へ応用する研究についても実施しています。また、近年のモノづくりにおける3Dプリンタの活用についても協力できます。

和泉 遊以

IZUMI Yui

工学部機械システム工学科 助教



専門分野：材料強度学，非破壊検査工学

キーワード：非破壊検査，赤外線サーモグラフィ法，疲労き裂，はく離，維持管理

地域連携・産学連携・地域活動について：

赤外線サーモグラフィを用いた欠陥の非破壊検査技術に関する研究を行っています。本技術は、遠隔、非接触、面での測定が可能のため、短時間かつ低コストで検査を行える方法として期待されています。研究対象は小型の部品から橋梁などの大型構造物まで幅広く、企業の方との共同研究も積極的に行っております。“現場で使える画期的な検査技術”を開発するのが研究のモチベーションです。お困りのことがあれば、まずご相談ください。

栗本 遼

KURIMOTO Ryo

工学部機械システム工学科 助教



専門分野：流体工学，混相流工学

キーワード：流体，混相流，数値シミュレーション

地域連携・産学連携・地域活動について：

液体と気体など異なる相が混在する流れである混相流は、発電プラントや化学プラントなど大小様々な工業機器において見受けられる流れです。相間を分ける界面が時々刻々と変化するため、混相流は非常に複雑な流れとなります。私は混相流の研究および混相流を予測できる数値シミュレーション手法の開発に従事しており、各種工業機器内における混相流の利用、問題の改善などに関するご相談に乗ることができます。

専門分野：振動工学

キーワード：振動, 超音波, 検査, モニタリング

地域連携・産学連携・地域活動について：

超音波を用いた構造物の検査、モニタリング手法を開発しています。損傷がある構造物に振動を与えると損傷の接触状態が振動に同期して変化します。この時、伝播する超音波に損傷部で振動に同期した乱れが生じます（非線形波動変調）。この乱れは接触面を持つ損傷がないときには発生しないため、高感度に検出できます。乱れを計測、解析することで損傷の大きさや位置を推定する研究を行っています。



工学部 電子システム工学科

乾 義尚 INUI Yoshitaka

工学部電子システム工学科 教授



専門分野：電力工学

キーワード：電力変換・制御，電力貯蔵，エネルギーシステム，自然エネルギー

地域連携・産学連携・地域活動について：

地球温暖化等の地球環境問題と化石燃料の枯渇等のエネルギー問題を解決するために、電気エネルギーの発生・変換・輸送・貯蔵技術のさらなる高効率化と自然エネルギーの有効利用が現在強く望まれています。このことを考慮して、私はパワーエレクトロニクス技術を用いた電力制御、リチウムイオン電池の動作特性シミュレーション、太陽光発電の電力系統連系制御、家庭用燃料電池の運用シミュレーション等の研究に取り組んでいます。私の研究は、地域に依存しないものであり、地域活動を直接の目的としているわけではありませんが、上記の研究分野での産学連携等を通じて地域貢献ができればと考えています。

作田 健 SAKUTA Ken

工学部電子システム工学科 教授



専門分野：計測工学

キーワード：磁気計測，非破壊，微小信号，信号処理

地域連携・産学連携・地域活動について：

安全・安心な社会・街づくりがますます大事になってきています。そのためには、まず測ることが第一歩です。測ることについて、特に微弱な磁気の測定に取り組んでいます。ものに紛れ込んだ異物、陰に隠れた異物や傷なども、磁気の手で見つけられることがあります。また、内部形状を確認できるものもあります。このような現象の利用、またそのために必要な信号処理や雑音処理などの計測技術についてお話できます。こうした技術により、直接あるいはものを通して、地域への安全・安心の提供を目指しています。



専門分野：半導体プロセス工学，イオンビーム工学

キーワード：半導体，デバイス，超微細加工，ナノテクノロジー，イオンビームプロセス

地域連携・産学連携・地域活動について：

これまで半導体分野で開発されてきた超微細加工プロセス（ナノテクノロジー）の中で、特にイオンビームを用いた加工方法により、固体試料表面へのイオン種の堆積（薄膜形成）、ターゲット原子のスパッタ（表面加工）、固体内部へのイオンの注入（表面改質）、などを利用した新しい材料合成や加工方法の開発、集束化したイオンビームを用いてこのような素過程を局所的に起こすことによる局所微細加工を行うプロセス、などの研究を行います。さらに光・電子線リソグラフィ技術と併せ、これらの技術を工学、環境、さらにはバイオ関係など、より広い分野において新しく応用・展開することを目指します。



専門分野：集積システム・通信方式

キーワード：集回路，通信システム機器・部品，センサー

地域連携・産学連携・地域活動について：

企業の研究所で、光通信システム用部品の研究・開発に携わっておりました。この経験を活かし、大学の研究室では、次世代高速通信システムの高度化や、高機能スマートセンサーシステム実現に向けて、部品レベルからシステムレベルまで幅広く研究・開発を行っています。高周波回路設計から評価まで一連の作業を研究室で実施できます。また、組み込み系 FPGA ボードやマイコンボードをベースに生体センサーシステム等の構築も手掛けています。

これらの技術を切り出して、様々な応用展開先を開拓中ですので、お声をかけていただければと思います。



専門分野：メタマテリアル科学，ネットワーク科学，プラズマ理工学

キーワード：メタマテリアル，電磁波，複雑ネットワーク，プラズマ，スマート化

地域連携・産学連携・地域活動について：

マイクロ波から光波の領域の特殊電磁波媒質の設計と通信技術応用、ならびに産業応用プラズマから観光地の観光スポット分布に至るまでの種々の多要素構造のネットワーク解析といった、次世代の情報通信技術を研究対象としています。多様な地域課題は研究対象としてもフロンティアといえ、研究シーズの幅広い応用展開を図っています。



専門分野：人工知能，データサイエンス

キーワード：意思決定支援，知識創発，データマイニング，テキストマイニング，情報可視化

地域連携・産学連携・地域活動について：

世の中では、多様かつ膨大なデータが蓄積される一方、それらを分析するための環境の不足、また分析する人間のスキル不足により、データが有効に活用されていない現状があります。そこで、さまざまな目的に対応できる汎用型データ分析環境の開発、ならびにデータ分析スキルの獲得を支援する環境を構築しています。

複数のデータ分析ツールをまとめて扱うことができる統合環境 TETDM を開発しています(<http://tetdm.jp>)。データ分析のプロセスは、「データ収集」「データ分析」「分析結果の収集（思考の発散）」「知識創発（思考の収束）」の4つからなり、このそれぞれを支援することで、分析結果を単に集めるのではなく、得た結果を有効に活用できるシナリオの構築までを支援します。



専門分野：デジタル信号処理

キーワード：画像信号処理，深度画像，加速度センサー，3D 復元，行動解析

地域連携・産学連携・地域活動について：

生活に役立つデジタル信号処理技術の開発を行っています。これまでの研究を通じ開発してきた、センサーによる人間の基本的な行動解析、深度画像による物体の形状・体積推定、動画像のコンテンツ分類といった技術を、まだ十分 IT 化がなされていない産業・看護・農業・観光といった分野へ適用することを考えています。例えば現在嚙下機能評価システムに必要とされる要素技術開発や、厨房での作業負担を自動的に計測するシステムの開発に取り組んでいます。これらの技術は地域での高齢者ケアや労働者の健康管理に貢献できるでしょう。



専門分野：電気計測，電気磁気学

キーワード：非破壊検査，電磁気応用，磁気計測，電気計測，有限要素法解析

地域連携・産学連携・地域活動について：

鉄道や自動車などの運輸機械、化学プラントや発電施設、架橋などの構造物を安全に使用するためには、非破壊的に欠陥を検査する必要があります。また、欠陥が発見された場合には、欠陥のサイズを定量的に評価し、構造強度に問題がないかどうかを判別できる技術の開発が求められています。電磁気現象を応用した非破壊検査手法である“渦電流探傷試験”および“磁粉探傷試験”の高度化・高精度化を検討しています。

産業界の実現場における問題点をしっかり把握し、その解決に重点を置いた研究を進めており、共同研究を通して地域の発展に貢献できるものと考えています。



専門分野：画像情報処理

キーワード：医用画像，画像認識，バーチャルリアリティ，機械学習，組み合わせ最適化

地域連携・産学連携・地域活動について：

人工知能（AI）が人の仕事を奪うという話を聞いた経験がありますか？AI の開発が進むに連れて、だんだんとコンピュータができる仕事が増えてきました。AI に仕事を奪われるのではなく、人とAI が共働することによって、今まで人だけでは困難だった仕事を実現できるようになります。近年は深層学習（ディープラーニング）と呼ばれる技術を応用して、画像から病変を自動認識する研究に取り組んでいます。また、映像が人の体に与える影響を調べたり、身の回りのデザインを自動設計したりする研究にも取り組んでいます。



専門分野：超音波エレクトロニクス，熱音響工学

キーワード：音響，エネルギー，超音波，熱音響

地域連携・産学連携・地域活動について：

『熱音響』、『超音波エレクトロニクス』、『エネルギー・環境』3つのキーワードを基に、『つかえる技術』をコンセプトに研究しています。未利用熱エネルギー（廃熱や太陽熱など）を効率よく利用することを研究しております。また、音響センサー、超音波センサーの開発、応用システムの開発も行っております。shin1sakamoto.com も参照ください。



専門分野：光物性

キーワード：非線形光学，ナノ結晶作製，物性評価

地域連携・産学連携・地域活動について：

日常生活に欠かせない光はその高速性より近年は新奇技術への応用が進められています。光を半導体へ入射すると分極の波が生じますが、これが乱されことなく全体に広がる程品質の高い微小構造を作ることによって光応答速度や発光効率の向上が実現できることを示してきました。このような材料の光学特性を評価するために非線形光学効果を用いた分光実験も行っており、ナノレベルの高空間分解分光法と併せて相談いただくことは可能で、共同研究等もできればよいと考えています。



専門分野：集積デバイス

キーワード：集積回路，通信，センサー

地域連携・産学連携・地域活動について：

CMOS 集積回路を中心に、集積デバイスおよびそれを用いたシステムの研究を行なっています。大規模なシステムではなく、センサーノードや通信のインターフェースなど小規模ながら重要な回路やデバイスをターゲットに、通信向けの高周波アナログ回路技術や低消費電力のための回路設計技術から、マイコンやセンサーを用いたシステムの設計まで様々なテーマを手掛けています。単に既存の回路の改良ではなく、他分野との連携を通して新たなシステムやアプリケーションの創出を目指します。



専門分野：自然画像処理，惑星気象学

キーワード：地球，火星，衛星観測，気象学，人工知能

地域連携・産学連携・地域活動について：

全方位を監視できる防犯カメラを空に向けて、彦根の空を常時モニタリングしています。空の色や雲の形、青空の割合が手にとるようにわかります。彦根の地方気象台の気象観測データと、屋上に設置したそのカメラの画像から、「これからスーパーに買い物に行くんだけど、傘を持っていくべきか」から、「今年の冬は大雪か」までさまざまな将来予測を目指しています。人が感じられる大気データだけから、「明日の天気を当てられるその道 40 年のおじさん」に勝てるのか、知りたいです。



専門分野：画像工学，システム情報科学

キーワード：画像工学，画像計測，システム工学，農林水産業，実応用

地域連携・産学連携・地域活動について：

「現場で使えるモノ」を心掛け、画像計測をベースとしたシステムを開発し、水産業や農業、美容、交通インフラなどへの実応用に取り組んでいます。例えば、海底を撮影した動画を用いたホタテガイ自動計測システム、新幹線の線路高架上の降雪検知、ドローンで撮影された空撮画像からの干潟地形推定など、様々な分野での目的や条件に合わせて現場も含めてシステムとして設計し、開発に取り組んでいます。



専門分野：プラズマ電磁流体力学，電気機器学

キーワード：電力遮断，放電，プラズマ，数値シミュレーション

地域連携・産学連携・地域活動について：

電流が流れれば熱が発生し、その熱によって空気の流れが生じます。このような人の目では見られない電流・空気・熱の流れを、数値シミュレーションでは人にとってわかり易い可視化された情報にすることができます。現在は、プラズマ・放電現象の数値シミュレーションを利用して、確実に、素早く電流を切る開閉装置の開発に向けた研究に取り組んでいます。数値シミュレーションを利用した製品設計や、数値解析技術のご相談・授業等でご協力できると考えています。



専門分野：集積回路設計、無線システム

キーワード：集積回路，無線システム，センサネットワーク

地域連携・産学連携・地域活動について：

一人暮らしのお年寄りや子どもの安全・安心な生活の実現、工業・農業分野等での産業分野における安全かつ効率的な生産性の確保が求められています。これらの要望や課題に応えるべく、センサネットワークを用いた回路システムの研究を行っています。回路の技術を用いて、これまでよりも低消費電力でかつ高機能なシステムの構築を目指しています。また、無線技術によるセンサデータの無線伝送や無線センシングなど、新しい形態のセンサネットワーク構築を試みています。地域の医療、産業、観光業に貢献できる技術の創出を行っています。

工学部

ガラス工学研究センター

地域ひと・モノ・未来情報研究センター

山田 明寛 YAMADA Akihiro

工学部ガラス工学研究センター 助教



専門分野：ガラスおよび融液の科学，マグマの科学，惑星内部物質科学，高圧物質科学
キーワード：ガラス・融液の構造，高温高圧，X線・中性子線分析

地域連携・産学連携・地域活動について：

ガラスにはその用途に合わせて様々な種類が存在します。ガラスの性質には、その原子レベルでの構造が深く関わっています。「割れにくい」ガラスはどのような構造をもつのか、またそれに力が加えられた場合どのような構造変化が起こるか等、ガラスの様々な性質について、学内の研究室はもちろんのこと、県内外の大学、研究施設およびガラス関連会社と共同して取り組んでいます。

杉山 裕介 SUGIYAMA Yuusuke

工学部地域ひと・モノ・未来情報研究センター 准教授



専門分野：偏微分方程式論

キーワード：偏微分方程式論，調和解析，実関数論

地域連携・産学連携・地域活動について：

熱、微生物、半導体中の電子の動き（拡散現象）、気体や弾性体内を伝わる密度波、道路を行き交う車両の粗密（波動現象）などの様々な物理現象を偏微分方程式を使って記述することができます。コンピュータの発展に伴って、数値計算で近似解を計算することは容易になってきていますが、近似やモデルの正当化はもちろん、近似の精度が落ちてしまうような無限個の情報や特異点を含むような計算には、数学が必要不可欠となります。微積分、幾何学、確率論などを用いて、このような偏微分方程式の研究を行っており、数学の様々な魅力を伝えられればと考えています。

人間文化学部 地域文化学科

濱崎 一志 HAMAZAKI Kazushi

人間文化学部地域文化学科 教授



専門分野：都市史，保存修景

キーワード：古民家再生，空き家の利活用，町なみ保存，文化的景観の保存

地域連携・産学連携・地域活動について：

もともとは建築史が専門です。伝統的な民家を調査し、報告していましたが、報告書が出る頃には民家が消滅していることが何度もありました。このままでは民家の死亡診断書を書くことが生業となってしまうことに危機感をおぼえ、古民家の活用に乗り出しました。古民家、伝統的建造物群(町なみ)、文化的景観を調査し、その価値を再評価し、保存・活用計画の策定を支援しています。

地域活動としては彦根周辺ではNPO 法人彦根景観フォーラムと、湖北では湖北古民家再生ネットワークと協力して古民家の保存・活用を支援しています。

人々の営みと自然が織りなす文化的景観の保存活動にも、NPO 法人景観と文化研究会とともに支援しています。

水野 章二 MIZUNO Syoji

人間文化学部地域文化学科 教授



専門分野：日本史

キーワード：日本中世の村落史，環境史，災害史，近江の地域史

地域連携・産学連携・地域活動について：

平安時代から戦国時代までの中世史を専門としています。文献史料には残りにくい民衆の姿を描くために、地域社会が伝えてきたさまざまな記憶を記録する調査を実施してきました。最近では自然科学の研究者と協力して、棚田・里山などを対象にした環境利用の歴史や、水・旱・風・虫害といった飢饉につながる災害の実態解明、気候変動の問題などに取り組んでいます。



専門分野：日本考古学

キーワード：中・近世城郭，大名墓，陶磁器，戦争考古学

地域連携・産学連携・地域活動について：

考古学というと、縄文時代や弥生時代など古い時代をイメージしがちですが、考古学は決して時代を限定するものではありません。私は「戦国時代を考古学する」をテーマに、日本列島に築かれた戦国時代の山城の構造や、出土する遺物から地域の戦国史を研究しています。また、近世大名墓の構造や埋葬状態などを通して「イ工」意識のあり方なども研究しています。いずれもが地域に残された歴史遺産であり、単に歴史を知るための資料としてだけではなく、まちづくりの核として活用できるものです。私自身全国各地の城跡を活用するまちづくりに関わり支援、実践を行っています。



専門分野：日本民俗学，博物館学

キーワード：水利用，当屋制，歴史民俗学

地域連携・産学連携・地域活動について：

民俗学は地域の生活をフィールドワークによって調べる学問です。これまで集落内の広場や集落内を流れる水路の利用、地域における民俗の生成過程などを研究してきました。近年は伝統芸能をいかに伝えていくか、また地域の歴史や民俗をいかに叙述するかといった応用的な課題にも取り組んでいます。また各地にのこる民具や民俗の調査にも学生たちとともにかかわってきました。このような問題について課題のある地域については、ともに解決策を考えていきたいと思っています。



専門分野：日本美術史

キーワード：日本美術史，絵巻，近江を描く絵，ジェンダー，女性像

地域連携・産学連携・地域活動について：

絵画を中心に日本美術史を研究しています。中でも、中世の絵巻を主な研究対象とし、絵が何を表し訴えようとしているのかを、その絵が制作・享受された社会的文脈から考える、ということを行ってきました。特に関心があるのは、「女性を描く絵」や「土地を描く絵」です。

性差による表現に注目し、男女共同参画の趣旨に沿った講演を行ったり、中世絵画における近江の表現について、地域の歴史を美術から探るといった趣旨の講演を行ったりしています。



専門分野：日本史，ジェンダー史
キーワード：平安京，都市社会史，女性史



専門分野：日本近世史
キーワード：江戸時代，古文書，琵琶湖舟運，漁業史，歴史地震

地域連携・産学連携・地域活動について：

江戸時代の歴史を専門とし、滋賀県内に残る古文書を日常的に調査、整理、研究しています。その関係から、県・市・町の文化（財）に関する委員や、地域の歴史書を編さんする委員などを務めています。古文書から明らかになった研究成果は、機会があれば講演会などで地域の人々に伝えるようにしています。古文書の調査依頼があった場合、学生らとともに地域におもむくこともあります。



専門分野：社会学
キーワード：地方都市，村落，祭礼，民俗芸能，メディア

地域連携・産学連携・地域活動について：

- ①近現代の地域社会における民俗芸能、都市祭礼を手がかりとして、地域のアイデンティティがどのように作りだされ、また変容していったのかについて研究しています。調査を通じて地域の祭礼・民俗芸能についての記録作成や住民向け調査報告、それらを通じた地域活性化に取り組んでいます。
- ②戦後日本のラジオ・テレビ放送において、中央の放送局と地方局のディレクター、そして放送局に情報を提供していた農村住民のネットワークがどのように結びついて番組が制作されていったのかを中心に、地域社会における情報やメディアについての研究を行い、また関心があります。



専門分野：人文地理学

キーワード：産地，特産物，フードシステム，地場産業

地域連携・産学連携・地域活動について：

食料・食品や伝統的工芸品といった地域の特産物をつくる「産地」が研究対象です。ライバルの商品・産地との競争の中で、これらがどのような戦略で生き残ろうとしているのかを、現地調査で集めた情報から分析しています。

このような経験をもとに、専門である水産物・水産業については、現状評価のための調査事業などに参加しています。



専門分野：建築史，保存修景計画学

キーワード：伝統的建造物の保存，町なみ保存，文化的景観の保全，文化遺産教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

- ・伝統的建造物の保存：伝統的建造物を調査し、その価値を評価することで、保存・活用に関する活動を支援します。
- ・町なみ保存：伝統的建造物で構成される町なみ・集落を調査し、その価値を評価することで、保存・活用に関する活動を支援します。
- ・文化的景観の保全：人と自然との相互作用によって生み出された景観（文化的景観）を調査し、その価値を評価することで、保全・活用に関する活動を支援します。
- ・文化遺産教育：伝統的建造物や町なみ、文化的景観といった文化遺産を地域の人々に広く知ってもらうための教育活動（小・中・高の学校教育や生涯学習）を支援します。



専門分野：地域計画学

キーワード：都市農村における景観まちづくり，地域資源管理

地域連携・産学連携・地域活動について：

滋賀県内を主たるフィールドとして、景観マネジメントやコミュニティ再編をテーマとした調査研究を進めています。

なお、一連の分析考察においては、ヒアリング調査を重視しながら、ワークショップ手法などのアクションリサーチ手法も積極的に活用しています。

地域コミュニティ自らが課題対処し、まちづくりが実行できるような支援システムの構築に向けて、自身の調査研究が活用できないか日々模索しています。



専門分野：社会人類学，地域研究

キーワード：東アジアにおける女性の移動，結婚，家族，再生産労働，華人

地域連携・産学連携・地域活動について：

東アジア、東南アジアでは、人の出産や養育、家事、介護に関わる再生産労働が国家間で分業されるようになっていきます。私は、台湾とインドネシアという、再生産労働力を外部から導入せざるを得ない社会と、女性を送り出し女性からの送金に依存せざるを得ない社会の双方で、家族や結婚、ジェンダー関係の変化と、2世代目の子供への教育支援について研究してきました。

これまでの経験をもとに、国際結婚の配偶者や子供たちへの支援について情報提供が可能です。



専門分野：朝鮮近世史，中朝関係史

キーワード：朝鮮王朝，燕行使，朝鮮通信使，東アジア国際関係，外交

地域連携・産学連携・地域活動について：

朝鮮半島における近世の歴史を研究しています。なかでも、朝鮮王朝から明朝中国、清朝中国に派遣された燕行使と呼ばれる外交使節に関心をもって研究しています。得られた知見をもとに、朝鮮通信使をはじめとする東アジア国際関係像の刷新を目指します。

人間文化学部 生活デザイン学科

面矢 慎介

OMOYA Shinsuke

人間文化学部生活デザイン学科 教授



専門分野：道具デザイン論

キーワード：道具学，デザイン史，考現学，伝統産業とデザイン

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は「道具」に関するものです。昔からある民具などの伝統的な道具も、いま身のまわりにある家電製品や情報機器もみな「道具」です。これらの道具が、なぜ、どのように生まれ、普及してきたのか、それが実際に生活の中でどのように使われているのか、その歴史や生態を探っています。特にいまの道具の生まれ方には、デザインという行為が深く関わっています。そのため、[人間－生活－道具]の関係を探ることが、今後のデザインの基礎になります。研究だけでなく、地域の伝統産業やデザインを盛んにするための活動も行っています。

宮本 雅子

MIYAMOTO Masako

人間文化学部生活デザイン学科 教授



専門分野：居住環境

キーワード：照明，色彩，環境バリアフリー

地域連携・産学連携・地域活動について：

超高齢社会に突入した今日、住環境についてはまだまだ改善が必要な点があります。その中でも主に視環境に着目した研究を行っています。高齢者・若齢者ともに快適な居住空間の条件、省エネルギーに貢献し、生活スタイルにあった住宅照明について検討することにより空間計画への応用が期待されます。また、公的機関との連携により視覚障がい者が安全に移動するためのバリアフリー環境についての研究を行っています。照明、色彩、バリアフリー環境の成果を応用したサイン等の設置・提案も進めています。



専門分野：地域デザイン，地域ブランド，職人研究

キーワード：地域，職人，まちづくり，絶滅危惧，限界集落，道具，デザイン，イタリア

地域連携・産学連携・地域活動について：

本来は建築デザイン、地域計画を専門として15年ほど民間のデザイン研究所で実務に関わってきました。大学での研究を始めてからは、国内、海外をフィールドに、ものづくりの歴史、絶滅が危惧される伝統技術、地域コミュニティなどの調査研究を進めています。現在は、高知県四万十町、北海道東川町、イタリア・サルディニア州パッターダ町、韓国・済州県加波島を拠点に研究室の活動を行っています。若い頃イタリアの建築大学で学んだ経験から、イタリア語と地元の人脈を生かして活動しています。

また、本学が誇る学生の地域活動プログラム「近江楽座」の専門委員長として学生たちの地域活動をサポートしています。



専門分野：服飾デザイン，被服人間工学

キーワード：服飾，デザイン，テキスタイル，体形

地域連携・産学連携・地域活動について：

滋賀県には日本でも有数の織物産地があり、優れた着心地や美しい風合いを持っていることが特徴です。私は地域の風土から生まれたこれらの織物の固有の技術を調査し、服飾をはじめとして生活用品のデザインに取り組んでいます。これまで新たな用途を検討するためのプロジェクトや研究会を行い、マーケットから製造、販売までを通した流れを持つ滋賀ブランドの開発を目指してきました。これからは滋賀の繊維ならではのデザインの魅力を見出しながら、地域に根差した開発を様々な方と連携したいと思います。



専門分野：服飾文化史，西洋服装史

キーワード：服飾文化，ファッション，西洋服装史，洋装化，ファッション情報

地域連携・産学連携・地域活動について：

世界服である洋服を中心とした服飾文化について研究しています。服飾を通して歴史を見ると、思いがけない発見があるものです。それとともに、ファッションについての関心を正しく持ってもらう重要性を考えています。下着をきちんと身につけられているか、サイズに合った服飾品を選んでいるか、いつも着ている服などを手入れできているかなど、どれも真にお洒落になるために大切なことです。こうしたことについてもお手伝いできることがあればと思います。

藤木 庸介

FUJIKI Yosuke

人間文化学部生活デザイン学科 准教授



専門分野：建築計画，都市計画，文化遺産観光

キーワード：建築設計，古民家再生，伝統的居住文化，少数民族居住文化

地域連携・産学連携・地域活動について：

人々の生活によって培われてきた地域に特有の居住文化は、その土地の気候風土や習俗習慣、あるいは地域産業といった様々な要素との結びつきにより形成されてきました。しかし近年、こうした地域に特有の居住文化は急速に失われつつあります。本研究室では、地域住民自らによる自律的な観光開発を手段とする事で行う、伝統的居住文化の維持・保全とその活用、ならびに、地域に根ざした住環境計画について、研究・提案を行っています。

佐々木 一泰

SASAKI Kunihiro

人間文化学部生活デザイン学科 講師



専門分野：空間デザイン，建築設計，商業空間設計，デザインブランディング

キーワード：空間デザインに関する調査研究及び制作，建築設計，商業空間設計，デザインブランディング，近現代建築の構法研究

地域連携・産学連携・地域活動について：

前職では店舗設計を行っており、大型商業施設の設計とデザインを行っていました。デザインは感性のものと思われがちですが、商業空間のデザインは日常行為の掘り起こしやシステム化をまず行います。システム化を行うことで、その後のデザインの継続性に繋がります。その成果は商店街のワークショップや、地域おこしイベントにも活用されています。研究室では空間デザインの研究と実践を進め、グッドデザイン賞をはじめ、ウッドデザイン賞やキッズデザイン賞、サインデザイン賞など、数々のデザイン賞を頂くこととなりました。また視覚表現という立場から、オランダ近現代建築の構法研究を続けており、実際の空間設計にフィードバックされています。

山田 歩

YAMADA Ayumi

人間文化学部生活デザイン学科 助教



専門分野：マーケティング，心理学，行動デザイン

キーワード：マーケティング・リサーチ，行動観察，行動経済学，プロモーション

地域連携・産学連携・地域活動について：

心理学とマーケティングにもとづいて、プロダクト、サービス、プロモーションの分析と提案を行っています。

生活者は自分のことを意外なほど自覚できていません。「どんなものが欲しいのか」と質問しても正しい理由が返ってくることは滅多にありません。生活者の行動を分析することで見えてくる本音があります。心理学とマーケティングの視点から生活者の本音をとらえ、生活者を動かす仕掛けと仕組みを作ります。



専門分野：プロダクトデザイン, ブランディングデザイン

キーワード：プロダクトデザイン, ブランディングデザイン, グラフィックデザイン, パッケージデザイン, デザインビジネス

地域連携・産学連携・地域活動について：

滋賀県のような産業や企業の商品開発、企業ブランディングをデザインすることに関わっています。地域にあるモノやコトをデザインすることで、付加価値を高めたり、本質価値を顧客へ届くように伝えたりすることを支援します。デザインというと、表面的な形だけと思われがちですが、どうすれば売れる商品になるのか、あるいは、企業の価値を上げることができるのかといった、仕組みづくりがデザインであり、出来上がるモノは結果に過ぎません。デザインを担当したプロダクト商品やパッケージデザインでも世界的な賞をいくつも受賞しています。

人間文化学部 生活栄養学科

矢野 仁康 YANO Mihiro

人間文化学部生活栄養学科 教授

専門分野：病態栄養学

キーワード：ポリフェノール，ストレス蛋白質，細胞死

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の専門は、身近な食材が有する特性を明らかにすることで、癌をはじめとする生活習慣病の予防など、食生活の改善による我々の健康増進に貢献できるような研究を行うことです。現在、機能性食品として知られているポリフェノール類が、私たちの細胞内に存在するストレス蛋白質に与える影響に着目し、これら食品成分が有する抗発癌作用や抗動脈硬化作用などの生理活性について調べています。日常の食習慣を病気の発症予防にいかにつなげていくべきなのか等、食を活用した健康増進プロジェクトを支援できればと考えています。



関西大学

中井 直也 NAKAI Naoya

人間文化学部生活栄養学科 教授

専門分野：運動栄養学，筋生理・生化学

キーワード：筋肉，タンパク質合成，筋サテライト細胞，アミノ酸

地域連携・産学連携・地域活動について：

筋肉には、サテライト細胞と呼ばれる幹細胞が存在し、筋肉の成長、再生、肥大に重要な役割を果たしています。運動や栄養、さらには色々な疾患や加齢等がサテライト細胞に及ぼす影響を分子レベルで研究しています。教育面では、スポーツに関連した筋力アップやスタミナ向上のための栄養摂取法について講義をしています。また、目的に応じた運動の種類や方法について実践的な授業を行っています。これらのことから、地域住民の健康の維持・増進について理論的および実践的な支援が可能であると考えています。



辰巳 佐和子 TATSUMI Sawako

人間文化学部生活栄養学科 教授



専門分野：臨床栄養学，老化の栄養学，時間栄養学，慢性腎臓病，骨粗鬆症におけるミネラル代謝学

キーワード：リン代謝，健康寿命，慢性腎臓病，骨粗鬆症，時間栄養

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は、臨床栄養学領域における病態栄養解明と栄養管理法の開発です。特に、「リン代謝」を明らかにし「健康寿命の伸延」を目指した研究に取り組んでいます。多くの加工食品やタンパク質に含まれるリンの過剰摂取は、慢性腎臓病を進展させ、骨代謝異常を誘発し、また単独で「老化」を加速させ寿命を短くさせることを明らかにしてきました。現在、時間栄養学を考慮したリン摂取法やリン吸収抑制効果のある栄養成分の探索を進めています。老化や慢性腎臓病・骨粗鬆症の予防を考案する上で、県産食材は魅力的なシーズです。研究成果をもとに、抗老化食品開発、健康寿命の伸延に貢献したいと考えます。

福渡 努 FUKUWATARI Tsutomu

人間文化学部生活栄養学科 教授



専門分野：基礎栄養学

キーワード：アミノ酸，ビタミン，栄養素代謝，栄養評価

地域連携・産学連携・地域活動について：

ビタミンやアミノ酸などの栄養素が体内でどのように代謝、利用され、生体にどのような影響をおよぼすのかを明らかにする研究に取り組んでいます。研究成果に基づいて、栄養素代謝を制御したり、栄養状態を評価することで、健康の維持・増進に寄与することを目指しています。

これらの取り組みから、ビタミン栄養状態の評価、食品中のビタミンの有効性、食品がアミノ酸代謝におよぼす影響など、ビタミン、アミノ酸を対象とした食品と栄養との関わりについてお話しすることができます。

小澤 恵子 KOZAWA Keiko

人間文化学部生活栄養学科 准教授



専門分野：給食経営管理，臨床栄養

キーワード：高齢者の栄養，嚥下障害，障害に合った食形態の工夫

地域連携・産学連携・地域活動について：

超高齢社会となった今、嚥下障害が原因の誤嚥性肺炎は、高齢者における死亡原因の大きな割合を占めています。高齢者の栄養管理の基本や、安全な食形態の知識を、具体的なデータを示しながら、管理栄養士・栄養士だけではなく、在宅医療に関わるあらゆる職種に対し、「食の理解」に向けて、教育や講演を行っています。

長い臨床現場の経験を生かし、最後まで食べることを楽しめるよう、身近な「食の援助者」として活動をしています。



専門分野：臨床栄養学，栄養教育

キーワード：栄養・食事指導，食育，スポーツ栄養サポート

地域連携・産学連携・地域活動について：

長年、大学病院で管理栄養士として働いていた経験や日本糖尿病療養指導士・NR サプリメントアドバイザーなどの資格を生かした「栄養と食」に関する支援（栄養相談・レシピ開発・料理教室など）や教育活動ができます。

昨年は、愛荘町健康推進員協議会の皆さんと「愛荘町健康レシピ」の作成を行いました。現在、大津市の介護予防や在宅療養支援のための多職種連携の活動に参加しています。また、離乳食教室、保育園児に対する食育、部活に励む選手とその保護者に対してのスポーツ栄養サポートなど、地域・保育園・保護者などと連携しながら取り組んでいます。



専門分野：栄養教育，小児栄養

キーワード：栄養教育・栄養指導，授乳期，乳児，母乳

地域連携・産学連携・地域活動について：

授乳期の母親の食事と母乳成分の関係、授乳状況と子どもの発達を中心に研究を進めています。「食」には、栄養摂取だけでなく、さまざまな役割があります。子育てで忙しいお母さまが少しでも楽しんで母乳哺育をしていただけるにはどうしたらよいか？赤ちゃんが健やかな食生活のスタートを切るために必要なような支援はなにか？育児に関わる多くの皆さんと連携しながら研究を進めています。



専門分野：食品学，分子栄養学

キーワード：DOHaD（生活習慣病胎児期起源説），妊婦と胎児の栄養，アミノ酸

地域連携・産学連携・地域活動について：

専門の分子栄養学では「妊婦さんが食べた食事からくる栄養素が胎児の栄養状態にどのように影響するのか？」ということを明らかにするために研究を進めています。これまで滋賀県内の病院との共同研究から、滋賀県民の方々の健康に貢献できるように研究を進めてきました。これからも引き続き進めていきたいと考えています。また今後は食品学の専門を活かして、滋賀県の特産食品や新規食品としての可能性を秘めた未活用食材の商品化に向けた取り組みもやっていきたいと考えています。

専門分野：公衆栄養学，栄養疫学

キーワード：公衆栄養学，栄養疫学，食事パターン，食生活

地域連携・産学連携・地域活動について：

どのような食事が健康の維持や生活習慣病の発症を予防するためにはよいのか、大規模な日本人を対象とした研究を行っています。具体的には、全国の人を対象とした栄養調査や地域にお住まいの中高齢者を対象に健康維持、生活習慣病発症予防に関わる栄養素や食事のとり方（食事パターン）の解明に取り組んでいます。現在、滋賀県で5年おきに行われている栄養調査の集計を当研究室で担当しています。調査結果は地域に適応した食を中心とした健康づくり指導の基礎資料として活用される予定です。



滋賀県立大学

専門分野：運動生理・生化学，スポーツ栄養学

キーワード：骨格筋，栄養，運動，糖代謝，脂質代謝

地域連携・産学連携・地域活動について：

運動を行うことで骨格筋では様々な適応が起きます。例えば、重い負荷をかけてトレーニングを行えば筋肥大が起き、持続的なトレーニングでは筋持久力が向上します。その際に骨格筋細胞内で起きている適応反応を分子レベルで明らかにする研究を、培養細胞や単離骨格筋組織を用いて行っています。単離骨格筋を用いることで、生体に近い環境下で化合物のスクリーニングを行うことが可能です。



滋賀県立大学

専門分野：病態栄養学，分子細胞生物学

キーワード：食成分，ポリフェノール，生活習慣病

地域連携・産学連携・地域活動について：

いつもの食事が我々の健康にどのような効果があるのか？身近な食材が有する特性を明らかにすることで、癌をはじめとする生活習慣病の予防など我々の健康増進に貢献できるような研究に取り組んでいます。最近、その健康効果が注目されているポリフェノール類に着目し、食品成分が有する抗発癌作用や抗動脈硬化作用などの生理活性についての詳細を明らかにすることで、食品が発揮する疾病予防効果を最大限に引き出すことを目指しています。



滋賀県立大学



専門分野：臨床栄養，腎臓，糖尿病

キーワード：腎臓における物質の輸送，慢性腎臓病，糖尿病性腎臓病，急性腎障害，たんぱく質と腎障害

地域連携・産学連携・地域活動について：

腎臓は目立たない臓器です。しかし体液量の調節、ビタミンやミネラル調節、ホルモン産生、毒物代謝など多くを司ります。機能が低下するとこれらが乱れ、また腎機能は不可逆的であり、生活の質や寿命短縮に関与する医療上の重要な課題です。

腎障害の原因や治療法は十分には確立されておらず、その解明を目的に研究を行ってきました。リン・カルシウムの輸送体、たんぱく質の輸送機構、糖尿病治療薬と腎臓、などを標的としてきました。

これら基礎研究、臨床課題について研究を進め、社会に貢献して参ります。



専門分野：基礎栄養学

キーワード：アミノ酸，ビタミン，脳機能，栄養状態，生体有効性

地域連携・産学連携・地域活動について：

近年、タンパク質を構成するアミノ酸が脳機能に影響をおよぼすことが明らかとなりました。そこで、アミノ酸の摂取やその代謝経路を制御、調節することで食環境を通して、脳機能を保護することを目指しています。また、食品中のビタミンはその存在形態の違いにより、食品ごとに生体が利用できるビタミン量が異なります。そこで、食品摂取後に各ビタミン栄養状態を反映する生体指標を測定することにより、食品のビタミン有効性を評価する研究にも取り組んでいます。このような研究を通して、健康の維持増進に関する食環境や食品の機能性についての情報を発信していくことを目指しています。

人間文化学部 人間関係学科

細馬 宏通 HOSOMA Hiromichi

人間文化学部人間関係学科 教授



専門分野：人間行動学

キーワード：心理学，社会学，コミュニケーション論，会話分析，ジェスチャー分析

地域連携・産学連携・地域活動について：

愛荘町の有線放送のアーカイブズの内容を文字に起こし、内容に解説を加える仕事をしています。有線放送の記録は昭和40年代のものからあり、明治生まれの地域のお年寄りの談話もたくさん含まれています。かつての湖東地方の暮らしぶりを伝える声や音楽のアーカイブズであり、民俗誌研究、音の文化史研究から見ても貴重なものであり、湖東の近江弁をたっぷりきくことのできる点でも興味深い内容です。詳しくは以下のWebサイトをご覧ください。

<http://www.shc.usp.ac.jp/aisho/>

松嶋 秀明 MATSUSHIMA Hideaki

人間文化学部人間関係学科 教授



専門分野：臨床心理学

キーワード：非行の立ちなおり，スクールカウンセラー，放課後児童クラブ

地域連携・産学連携・地域活動について：

本学赴任以来、滋賀県スクールカウンセラーとして小学校・中学校において、児童生徒の心理面での支援と、そのための手段として教職員へのコンサルテーション活動をしてきました。また、それに付随して不登校、非行、いじめ、特別支援教育などについての講演、相談活動を行っています。草津市のいじめ対策協議会の委員もしています。また、昨年からは長浜市の放課後児童クラブにおいて、児童にとってのよりよい放課後生活を保障するためにどのような支援が可能か調査を行っています。



専門分野：比較認知発達科学

キーワード：乳幼児，発達，進化，保育，食行動

地域連携・産学連携・地域活動について：

子育て応援ラボ「うみかぜ」(<http://umikaze.sub.jp/>)を拠点として、おもに乳幼児期の母子コミュニケーションに関する研究を行っています。研究テーマはさまざまですが、いつも大切にしているのが「発達」と「進化」の視点です。世の中には、本来の人の姿に照らすと、合点のいくこと、いかないことが多々あります。2つの視点から人の本質に迫ることで、本来の人の姿を浮き彫りにし、その行動を深く理解したいと考えています。研究成果の多くは、保育の実践に活かせるものです。それらは、一般の方を対象とした講演や実践書をとおして、社会に公表しています。



専門分野：地域・都市社会学，村落社会学，政治社会学

キーワード：地域社会，地方自治，都市，農山漁村，社会調査

地域連携・産学連携・地域活動について：

グローバル化や少子高齢化・人口減少などの社会変動のもとで、都市や農山漁村はどのように変わっていくのでしょうか。身の丈にあわない無理な経済成長を志向せず、持続可能で、かつ公正な地域社会のあり方を求めて、各地でフィールドワークを行っています。社会調査の技術をもとに、聞き取り調査も行いますし、アンケート調査による統計解析も行います。即効性のある政策や実践は、おそくないのだろうと思います。耳触りのよい安直な処方箋を書くよりも、まずは、市町村レベルでも集落レベルでも、その実態を科学的に把握することから始めるほうが、結局は問題解決の早道ではないかと思っています。



専門分野：歴史社会学，社会運動史

キーワード：基地・軍隊，社会運動・市民運動，環境，暴力

地域連携・産学連携・地域活動について：

軍事基地の建設によって地域社会がどのように変容し、地元住民がどのような困難や問題を抱えているのか、歴史的な視座を大切に調査をしています。近年では、京都府京丹後市丹後町宇川地区において、米軍基地建設にともなう電磁波環境の変化とそれがもたらす生活環境の変化に着目し、地元住民とともに電磁波測定調査などを定期的に行っています。国策として進められる事業を、住民の立場から検証するとともに、住民が取り組んでいるさまざまな営みを記録に残し、幅広い人びとと共有していく媒介者として活動していきたいと思っています。



専門分野：教育方法学，教育学

キーワード：持続可能な開発のための教育（ESD），グローバル教育，カリキュラム，教育評価，授業研究

地域連携・産学連携・地域活動について：

国内外に存在する貧困や格差、環境破壊などの地球的諸問題の解決を通じた持続可能な社会の実現に取り組むことのできる人間の育成をめざす教育活動である「持続可能な開発のための教育（ESD）」やグローバル教育について、特に、効果的なカリキュラムの編成や授業づくり、教育評価のあり方に焦点をあてて研究を進めています。また、今後求められる学力の内実の検討やそうした学力の保障をめざした実践のあり方についての研究、授業研究を通じた授業改善などにも取り組んでいます。研究を進めるにあたっては、学校現場の先生方や地域の方々との共同研究を積極的に行っていきたいと考えています。



専門分野：教育学，教育史

キーワード：教育制度，地方教育行政，地域教育史，実業補習学校制度

地域連携・産学連携・地域活動について：

専門は、教育学・教育史です。近代日本において、各地域がどのように学校設立や就学普及に取り組んできたのか、その歴史的過程を研究しています。愛知県教育史や豊田市史、伊賀市史などの自治体史編纂事業にも携わりながら、地域教育史の掘り起こしに取り組んでいます。

また、滋賀県内の学校教師とともに、現代日本社会における教育課題について学習会を行ったり、教育研究会を支援したりしています。



専門分野：教育学

キーワード：青年期教育，若者支援，ニート・ひきこもり

地域連携・産学連携・地域活動について：

不登校、中退、ひきこもりなどを経験した若者たちと実際に関わりながら研究を行ってきました。かれらが再び自らの人生を歩んでいくためには、どのような環境や〈支援〉が必要なのかに関心があります。彦根市との共同研究では、そういった若者たちが集い、学び合うためのフリースペース（居場所）を試験的に開設しました。また、講演活動を通じて、「甘えた若者」と誤解されやすい現代の若者問題への理解も求めています。若者の思いを探り、共に生きやすい社会を創造していくために、どのような場や〈まなざし〉が必要なのか、若者・支援者・行政と模索しながら研究成果を還元しています。

中村 好孝

NAKAMURA Yoshitaka

人間文化学部人間関係学科 助教

専門分野：社会学

キーワード：(とくに精神) 障害者福祉, 社会的ひきこもり, インクルーシブ教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

研究の中心の一つは社会学の理論研究ですが、社会的ひきこもり、障害者福祉、地域福祉などについて調査研究も行っています。また、アサーティブトレーニングなどコミュニケーションについても関わっています。



後藤 崇志

GOTO Takayuki

人間文化学部人間関係学科 助教

専門分野：社会心理学, 教育心理学, 認知心理学

キーワード：モチベーション, セルフコントロール, 社会的影響, 心理測定, 調査設計

地域連携・産学連携・地域活動について：

私たちの行動選択の多くは、過去の経験や、周囲の環境・他者・出来事などの影響を受けています。実際に私たちが「いま、ここ」でおこなっている行動の選択とそれに伴う自分の意志に関する感覚が、どのような情報処理によって実現し、どのような機能を持っているのか、を明らかにしていきたいと考えています。

また、教育実践の専門家との共同研究として、人の主体的なふるまいに関する心理学的な知見や手法を活かした社会・教育のデザインに関する研究を行っています。特に、知識・能力の測定や、因果関係の推定・効果検証のための調査の設計、統計分析などの役割を担当しています。



人間文化学部 国際コミュニケーション学科

棚瀬 慈郎 TANASE Jiro

人間文化学部国際コミュニケーション学科 教授



専門分野：文化人類学，チベット地域研究

キーワード：文化人類学，チベット

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究対象は、主にチベット地域の歴史や社会、文化です。そのため、関連する文献を読むだけでなく、できるだけ現地に入って、そこで暮らす人々の声を聞くように心がけています。また、チベット人自身によるチベット研究のお手伝いをするため、何人かのチベット人留学生を指導してきました。

呉 凌非 60 Ryohi

人間文化学部国際コミュニケーション学科 教授



専門分野：言語学，言語処理

キーワード：深層格，表層格，意味構造，動詞分類，モダリティ表現

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は修士課程においてはコンピュータによることばの翻訳を研究し、博士課程においては言語処理のためのことばの意味記述を中心に研究し、その後は関連した研究をしてきました。教育に関しては、専門科目のほかに、中国語も教えています。いざ必要になった場合、速成中国語のアドバイスもしています。また、私は囲碁のアマチュア6段の棋力をもっており、彦根東高等学校の囲碁サークルの強化訓練の指導員としても活動に携わっております。



専門分野：アメリカ文学，創作（詩），外国語習得

キーワード：アメリカの詩，詩の創作，自然，里山，日本の詩・翻訳

地域連携・産学連携・地域活動について：

専門は英語文学、文芸（詩）創作です。自然と文学との関係にも関心があり、日本の俳句、短歌を調べる中で、里山に強い関心を持つようになりました。その関係で、鶴飼先生が主導されている彦根市石寺町の環境保全・町おこし運動にも関わるようになり、そのイベントにできる限り滋賀県立大学の留学生を連れて参加しています。

米国国務省 CLS プログラムの日本語専門家を目指す学生（約 25 名）の文化教育のため、彦根市の伝統文化普及を目指す NPO 団体を通して地域文化（書道、茶道、狂言、湖東焼等）をアメリカ人に紹介しています。彦根市の学校訪問も行っています。



専門分野：近現代史，現代中国研究，モンゴル満洲地域研究

キーワード：近現代史，モンゴル・満洲地域研究，中国の少数民族問題，日中関係

地域連携・産学連携・地域活動について：

研究の出発点はモンゴル近現代史ですが、モンゴル民族はモンゴル国以外に、中国とロシア連邦にも広く分散居住しており、モンゴル人の近現代的足跡を追うこと自体が東アジア広域の民族と国家関係に深く関係してきます。日本は 20 世紀の初頭から満蒙へ進出し、モンゴル人と深く関わってきた歴史を持っています。従って、近現代における日本とモンゴルの関係は日本と中国の関係にも密接に関連してきます。日中関係の複雑さを考えると、大学の授業では、モンゴルや他の少数民族の視点から日中関係を解説する方がより生産的であると実感しております。



専門分野：認知言語学，認知文法，英語学

キーワード：構文，形式と意味，意味論，語用論，事態認知

地域連携・産学連携・地域活動について：

言葉には普遍性が見出せる側面と個別言語に特徴的な側面という二面性が観察されます。前者は「認知」、後者は「文化」を反映していると言われます。英語であれ、日本語であれ、私たち人間に共通する認知に基づいて言語化されるものの、認知のどのような側面をより強く反映するか等は言語によってそれぞれ異なると考えられています。こうした言語観に立ち、英語と日本語を中心に構文比較対照研究を行っています。

教育面については、後期中等教育における教員実践経験と国立大学での英語教員養成課程に携わった経験を活かし、語法・文法、言語学、英語学を教える取組を行っています。

専門分野：英文学

キーワード：英語圏文学，世界文学，ヨーロッパ現代思想

地域連携・産学連携・地域活動について：

19世紀末から20世紀のイギリスの小説を専門に研究しています。19世紀のイギリスの小説を、19世紀のイギリス国内の歴史や思想の中で考えるだけでなく、ヨーロッパの思想の流れの中で位置づけながら、イギリスとイギリス小説の特異性を明らかにしようとしています。また、英語で創作しているアフリカ、インド、東欧出身の作家の作品も研究の対象で、現代の世界情勢と結び付けながら授業でもテキストとして使うこともあります。

可能な協力、支援、アドバイス：異文化（ヨーロッパ、とくにイギリス）の文学・思想・芸術理解に関する事柄

専門分野：文化人類学，モンゴル研究

キーワード：モンゴル，民族問題，シャーマニズム，仏教，ポピュラー音楽，グローバリズム，チンギスハーン観

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の専門は文化人類学です。文化人類学は、世界の様々な国や地域を自分の足でフィールドワークすることで、人間とは何なのかを考える学問です。私はモンゴルで断続的に7年ほど滞在して、草原を駆け回って彼らの文化や社会に関する研究をしてきました。

他者の文化を知ることは、自己の文化を知ることもあります。モンゴルにはいじめがありません。また医師・教師・学校教員の70%が女性です。ごはん作りや掃除といった家事をするのは母親ではなく、子供たちです。こうした異文化を知ることは、日本の社会や文化を考えるきっかけになるのではないかと思います。講演活動は喜んで引き受けます。

専門分野：ドイツ語学

キーワード：ドイツ語，ドイツ語史，ドイツ文化，言語学，メディア学

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は中世から現代までのドイツ語を対象に「多義性」「表現の交換可能性」「言語変化」について研究しています。とりわけ（1）一つの形態がさまざまな環境におかれることによって多種多様な意味を生み出すメカニズムや、（2）ある品詞が別の品詞と互換性をもつための表現形式について多大な関心をもっています。本学では主としてドイツ語やドイツ文化に関する講義を担当していて、これまで外国語に対するアレルギーをもっている人にも楽しく学習できるように配慮してきました。ドイツ語やドイツ文化の魅力だけでなく、「ことば」そのものの「旨味成分」や「ものの考え方」についてもお話することができます。

河 かおる KAWA Kaoru

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



専門分野：朝鮮近代史

キーワード：朝鮮・韓国，植民地，在日朝鮮人，地域史，多文化共生

地域連携・産学連携・地域活動について：

最も専門に近い領域としては、地域社会での在日朝鮮人の歴史に関心があり、在日朝鮮人に限らず「地域の近現代史の中の世界」という観点で、地域の歴史掘り起こしに貢献したいと考えています。自治体史の執筆経験もあります。また、多文化共生や在日外国人の人権問題に関心があり、県や市町の多文化共生関連の指針策定に関わったり、多文化共生や外国人の人権に関するテーマでの研修講師を務めたり、外国人住民や外国人学校を支援する市民活動に関わったりしてきました。

マーティン ホークス Martin HAWKES

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



専門分野：応用言語学

キーワード：タスクを重視した言語教育，言語教授法，第二言語習得，英語の歴史

地域連携・産学連携・地域活動について：

近畿地方において、全日本大学英語模擬国際連合の年次大会(JEMUN)が開催されています。30カ国の大学生が参加し、2018年度の参加者は300人以上でした。私は2016年より、滋賀県立大学から参加する学生の指導者として、学生を引率しています。また、2012年より全国語学教育大会(JALT)京都支部の役員として、他の役員とともに滋賀県・京都府の言語教師を応援するため、演習・講習・学会を主催しています。

谷口 真紀 TANIGUCHI Maki

人間文化学部国際コミュニケーション学科 助教



専門分野：国際理解・国際平和

キーワード：ジーン・シャープ，非暴力行動，新渡戸稲造，クエーカー信仰

地域連携・産学連携・地域活動について：

国際人とはどのような人なのかに関心を持っています。国の境界を超えて活躍してきた人について、書物を手がかりに文化や思想の観点から読み解いています。滋賀県にも注目すべき国際人がいました。近江八幡市の名誉市民第一号のウィリアム・ヴォーリズです。アメリカからやって来て日本人に帰化し、地元の人々のために社会活動や教育活動で力を尽くしたヴォーリズを紹介していくつもりです。今いる場所から世界を考えていくための講演や執筆を通して今後も積極的に滋賀のみなさまと協力していきたいと思っています。



専門分野：文化史, 思想史

キーワード：フランス, 近代, 美食, 社交

地域連携・産学連携・地域活動について：

人間にとって「よき」食のありかたとはどのようなものかについて、主にフランスをモデルに研究しています。指導する学生にはフランス留学を経験する者も多く、こうした教育活動を通し、微力ながら滋賀県とフランスとの交流に貢献できるよう努めていきたいと考えています。彼ら・彼女らが将来的に、滋賀県で新たな食のかたちを実践していってくれることを期待しています。

人間看護学部 人間看護学科

甘佐 京子 AMASA Kyoko

人間看護学部人間看護学科 教授



専門分野：精神看護学

キーワード：心の病気（精神疾患）、心の健康（メンタルヘルス）教育、笑い与健康

地域連携・産学連携・地域活動について：

精神的なストレスが増加するとともに、精神的な疾患を発症しやすい思春期にある生徒を対象に、心の病気（精神疾患）や、心の健康（メンタルヘルス）について、中学生や高校生を対象にした出張講義を行います。自分の心の状況を知ること、必要な支援や治療へ自らをつなげていけることを目的にしています（早期発見・早期治療）。また、地域住民の方を対象に、心の健康教育として「笑いの効用」についての講義と日常生活を題材にした漫才をセットにした講演活動も行っています。

伊丹 君和 ITAMI Kimiwa

人間看護学部人間看護学科 教授



専門分野：基礎看護技術，教育工学

キーワード：生活と健康，リラクセーション，防災，腰痛予防，学習システム

地域連携・産学連携・地域活動について：

看護はすべての人を対象にします。すべての人が「その人らしく生き生きと健康に生活する」ために、どのような看護サービスが提供できるのか？そのことを授業だけでなく、地域の皆さんを対象に「生き生き健康支援活動」を企画・実施する学生プロジェクトチーム「未来看護塾」の活動を支援しています。そのような中、心と身体を健康にする「笑いヨガ」「タオル体操」「ハンドマッサージ」「足浴」「音楽」などの検証や、「防災」に向けた取組も行っています。また、工学部と共同で「腰痛予防」のための「学習システム」も開発中です。

様々な観点から、地域の皆さんの健康な生活を支援していきます。



専門分野：成人看護学

キーワード：エンドオブライフケア，エンドオブライフ教育，医療倫理

地域連携・産学連携・地域活動について：

これからの多死社会に向けて、一人ひとりが最期まで自分らしく生きることについて考える必要があると感じています。大学では、エンドオブライフケア(人生の最期を支える看護)について講義をしています。地域活動では、高齢者施設における看取りのケアや、看護職を対象とした医療倫理についての講義をしています。人生最期の時をどのように過ごしたいのか(終活)などについて、一緒に考えることができればと思っています。



専門分野：母性看護学，助産学

キーワード：母性看護学教育，助産学教育，安全管理，分娩介助，子育て支援

地域連携・産学連携・地域活動について：

最近取り組んでいる研究は、助産の安全管理に関する内容です。特に現在は、分娩介助において安全管理教育モデルを作成し、内容妥当性及び活用性を検討しました。さらにこの教育モデルを発展させ、安全管理能力を測定する指標の開発に取り組んでいます。同時に助産師教育の安全管理教育の充実に向けた教育方法の開発研究にも取り組んでいます。



専門分野：地域看護，在宅看護学

キーワード：在宅看護学教育，家族支援，在宅看取り，介護保険制度，訪問看護師のストレスマネジメント

地域連携・産学連携・地域活動について：

在宅看護学領域は、超高齢社会、多死社会に向けて、近年急速に関心が高まってきた領域ですが、まだまだ発展途上にある分野です。人々の「住み慣れた地域で自分らしく暮らしたいという願いを実現する」という思いをもって教育と研究に携わっています。具体的には、在宅看護実践方法や在宅ケアシステムの開発・改善に取り組んでいます。自宅で生活することは当たり前のことですが、その当たり前のことを病気や障害をもって当たり前続けられるよう、介護保険制度をはじめとしたサービスの活用や誰もが住みよい、住み続けられる地域づくりを、皆さんと共に考え、共有していきたいと考えております。



専門分野：小児看護学

キーワード：プレパレーション，学校看護師，家族看護

地域連携・産学連携・地域活動について：

子どもの不安や恐怖を最小限にして、子どもやその家族の持てる力を引き出す関わりをプレパレーションといいます。そのプレパレーションについて研究を行っています。子どもの心理や理解を踏まえ、子どもの権利を尊重した関わりとはいったいどのようなことなのかを一緒に考えていければと思います。



専門分野：婦人科腫瘍学，産科異常学

キーワード：卵巣癌，子宮体癌，子宮頸癌，足浮腫，医療機器

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は平成 28 年 4 月に当大学に着任した産婦人科の医師で、3 年前まで大津赤十字病院の第一産婦人科部長の任務に携わっておりました。同病院は滋賀県の総合周産期母子医療センターも兼ねており、私は県内の異常妊娠・分娩を数多く取り扱ってきました。その経験を活かし、現在は大学院生と共に妊娠期における足浮腫の臨床研究を行っています。

しかし、元々の専門は婦人科腫瘍の診断・治療で、中でも卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌の早期発見の研究を重点的に行ってきました。今までの知識を活かし、癌の早期発見のための医療機器開発や検査法も検討しています。



専門分野：老年看護学

キーワード：高齢者，認知症，攻撃的行動

地域連携・産学連携・地域活動について：

認知症の症状のひとつとして、暴言をはいたり、つねったりたたいたりといった暴力的になる攻撃的行動というのがあります。その攻撃的行動について介護する人たちがどのように感じているのかについて研究しています。他には、高齢者施設での転倒や、高齢者の摂食・嚥下障害（食べたり飲みこんだりすることに障害がある）に関する研究にも携わっていました。また看護学生を対象に、エイジズムという高齢者への偏見に関する研究もしています。



専門分野：解剖学，神経科学，神経内科学，神経病理学

キーワード：神経疾患，認知症，脳のしくみ

地域連携・産学連携・地域活動について：

脳のしくみや神経疾患の発症機序の解明をめざして、実験医学研究に取り組んできました。具体的には、京都大学や滋賀医科大学の医学部の協力を得て、剖検で得られたヒトの脳や、ラットなどの実験動物の脳標本を用いて、生体活性物質の局在や病気での変化を解析しています。地域の住民の方々や高校・中学の皆様には、人体のしくみや病気の発症のしくみなど、出前授業などでお話しすることができます。また、地域の看護職やその他の医療職の皆様には、医学的な側面から研究を支援します。



専門分野：臨床看護学，慢性期看護学

キーワード：慢性の病い，セルフマネジメント支援，ケアとしての音楽療法

地域連携・産学連携・地域活動について：

慢性の病いをもつ方は、病気からくる身体的な問題だけでなく、病気からくる不安などの心理的な問題、社会参加や人間関係など様々な問題をかかえて生きていきます。

このような慢性の病いをもって生活されている方に、代替療法の一つである音楽療法を看護援助と組み入れて提供できるケアの方法を探究しています。現在、滋賀県内で活動できる音楽療法士の方と身体障がい児者や要介護高齢者などを対象にケアの場に音楽療法を組み入れる活動を行っています。そして、長期にわたり持続する病いと共に生きる人とその家族が、病気と折り合いをつけて、その人らしい生活を送ることを目指しています。



専門分野：成人看護学

キーワード：臨床看護学，急性期看護，回復期看護，看護教育，リンパ浮腫ケア

地域連携・産学連携・地域活動について：

成人期の急性期～回復期の看護、主に「手術を受ける患者への看護」に携わってきました。周術期を安全に安楽に過ごしていただくことはもちろんですが、手術後の人生をよりよいものにしていただきたいというおmoiがあります。急性期における回復する力を引き出す援助、回復期における生きていくことへの励みとなるようなケアについて考えています。「病気や治療に伴う身体的・心理的ストレスを緩和するための看護援助」「続発性リンパ浮腫のセルフケア」「看護基礎教育におけるアクティブラーニング」などをテーマとしています。



専門分野：助産学，母性看護学

キーワード：母乳育児，産後ケア，ウィメンズヘルス，月経カップ，助産教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

助産師教育に従事しながら、東近江地域の産後ケアシステム構築に関する連携研究に携わってきました。地域で子育てをしながら生活する家族支援の在り方について、多職種が連携・協同しながら考えていく必要性を強く感じています。一方で、ウィメンズヘルスの向上に寄与する一環として、月経カップの開発や使用に関する研究の拡充を検討しています。



専門分野：家族看護学，障害児看護，小児保健

キーワード：子どもの成長発達，発達障害，家族支援，看護介入方法の開発，支援ツールの開発

地域連携・産学連携・地域活動について：

1996年に非営利看護支援活動グループ「ウリボウの会」を結成し、支援する側と支援される側が一緒になって、病・障がいのあるお子様とご家族に限定した支援ツールや支援プログラムの開発を行ってきました。2014年からは「育児記録ソフト Mamin」（<http://uribow.org/mamin/> アンドロイド・iPhoneでも利用可能）の配信を機会とし、日々成長するすべてのお子様とご家族を対象とした看護支援の取り組みを開始しました。NTTクラリティ株式会社が運営する情報サイトでも取り上げられました（https://www.u-x3.com/?p=287&post_tyep=post）。



専門分野：基礎看護学

キーワード：看護理論，重症心身障害看護，看護管理，看護倫理

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は、重症心身障害のある人への看護に関するものです。重度な障がいがある人たちが社会の中で生活するために看護が果たすべき役割について研究しています。看護を必要とする場合は病院内だけではなく、病気や障がいをもちながら生活し、学校や職場に行っている人たちにも必要なことです。滋賀県内の病院とも連携をとり、医療現場と教育とをつなぐ役割を果たしたいと思っています。

出張講義では、「看護」とはどのようなものかを中心に、看護に関心のある人に看護についてわかりやすく伝えたいと思います。

小林 孝子 KOBAYASHI Takako

人間看護学部人間看護学科 准教授



専門分野：公衆衛生看護

キーワード：母子保健，育児支援，保健師，発達障害

地域連携・産学連携・地域活動について：

安心して子育てができるための支援について研究を進めています。これまで、「子育て中の母親の安心」について指標開発を行ってきました。この指標を、提供するサービスの評価に使っていただくことで、子育て支援の充実につながることを目指しています。

現在は、発達障害のある女性の妊娠から育児期までの支援方法の開発に取り組んでいます。

馬場 文 BABA Aya

人間看護学部人間看護学科 准教授



専門分野：公衆衛生看護学

キーワード：児童虐待防止，子どもの貧困，地域診断

地域連携・産学連携・地域活動について：

児童虐待や子どもの貧困等、福祉分野と関連の深い研究テーマを掲げているため、縁あって彦根市社会福祉協議会の「相談機関交流会」「包括化推進会議」に関わっています。見過ごされる方が無い地域社会のあり方を一緒に検討しています。

また、市町の保健・福祉部門と協働した調査研究として、平成 28・29 年度は、公募型地域課題研究費の助成を受け、甲良町保健福祉課と共同で子どもたちの食生活に関する実態調査を行いました。平成 30 年度は、野洲市からの受託研究で、「高齢者が『互助』としての地域活動に主体的に取り組むまでのプロセスとその促進要因の探索」のテーマで調査研究をすすめています。

古川 洋子 FURUKAWA Yoko

人間看護学部人間看護学科 准教授



専門分野：母性看護学，助産学

キーワード：産み育て支援，思春期の健康支援，いのちの教育，女性の健康（ウィメンズヘルス）支援

地域連携・産学連携・地域活動について：

女性の妊娠から出産、産後そして育児期の健康を支援する地域活動を進めています。女性にとって、妊娠や出産、そして育児がより良い体験となる支援を行っています。そして、子ども虐待防止の視点に立ち、その予防や多職種連携、啓発活動を行っております。また、思春期にある児童を対象に、性の健康やいのちの教育について出張講義を行います。思春期の健康は、その後の健康生活へと繋がる一歩です。



専門分野：精神看護学

キーワード：患者看護師関係, involvement, かかわり, 巻き込まれ, 境界

地域連携・産学連携・地域活動について：

研究テーマは、「看護におけるかかわり」です。相手との間で「経験を共有すること」「関心を示すこと」「信頼関係を築くこと」「責任や感情、プライバシーなどの境界を調整すること」という4視点でかかわりをとらえ、看護学生の教育や看護師の相談を行っています。役割を持った対人関係にも応用可能です。

その他に、県内病院の看護師の研究相談に応じています。また、日本精神看護協会滋賀県支部の研究セミナー講師や看護研究発表会の講評を行っています。さらに、日本看護協会滋賀県支部の実習指導者講習会や滋賀県専任教員養成講習会の講師を担当しています。



専門分野：在宅看護

キーワード：在宅看護, 訪問看護

地域連携・産学連携・地域活動について：

私が専門としている在宅看護では、医療的なケアが必要であったり、障がいがあるなど、日常生活に支援が必要な方が、ご自宅で安全かつ安心して暮らしていけるような支援方法を学びます。このためには、日常生活の経験や地域の特性もふまえて対象者をとらえていかなければなりません。また、生活する上で活用できる社会資源の理解も必要です。個人個人だけに目を向けるのではなく、その地域が持つニーズにあった看護を考え、地域の持つ強みを活かしていけるような関わりをしていきたいと思っています。



専門分野：基礎看護学

キーワード：危険認知, 視線運動, 医療安全, 看護学生, 看護師

地域連携・産学連携・地域活動について：

看護師さんは、普段、患者さんへ安全なケアを行うために、何をみているのか？というところに関心を持ち、看護師さんの視線や注視点などの研究をしています。それを、経験の少ない看護師さんや看護学生さんに伝えることができれば、危険を回避した安全な看護援助につながると思っています。大学では、看護学生さんに医療事故を身近に考えてもらうために、医療事故体験学習を行っています。研究や教育を通して地域の看護の質の向上につながればと思っています。



専門分野：クリティカルケア看護

キーワード：救急看護，周術期看護，エンドオブライフケア

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の専門分野は「クリティカルケア看護」であり、重篤な疾患や外傷、身体的侵襲の大きい手術などによって生命の危機的状況にある患者さんとそのご家族に対する看護を教えています。

また、臨床現場では、患者さんの生命の維持・回復にむけて看護を行うなかで、死に直面することも多くあります。このような状況にある患者さんやご家族、看護実践を行う看護師を対象に、クリティカルケア領域におけるエンドオブライフケアに関する研究を行っています。教育・研究活動をとおして、クリティカルケア看護の質向上に貢献したいと考えています。



専門分野：老年看護学

キーワード：高齢者，障害者，家族支援

地域連携・産学連携・地域活動について：

高齢者の社会参加やフレイル・サルコペニアを中心に研究をしています。障害者の就労支援を行う NPO 法人の立ち上げに参加し、長年、障害児・者の地域生活支援を行ってきました。高齢者や障害・疾患を持ちながら生活している人々の看護を通して、暮らしやすい社会の構築を目指します。



専門分野：成人看護学

キーワード：慢性期看護，エンドオブライフケア，肝疾患患者の支援，集団教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

肝疾患や糖尿病、がんなどの病気にかかった人への支援について研究しています。特に、「肝臓病教室」という、肝疾患患者さんやその家族が集う場における支援について、調査や取組を行っています。滋賀県内の病院でも開催されているもので、多くの患者さんが通われています。患者さんやその家族の方が安心して療養を続けられるための支援を、患者さんや家族の方、病院スタッフと一緒に考えていきたいと思っています。



専門分野：小児看護学

キーワード：未成年の喫煙防止教育，タバコに関する健康教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

未成年の喫煙防止に関する研究を行っています。未成年の喫煙は法律で禁止されているということだけでなく、成人よりも健康被害が重大になりやすいことから防止していく必要があります。また、受動喫煙の被害など、子どもたちのタバコによる健康被害を防ぐために地域でのタバコに関する健康教育など様々な活動を行っています。主には、小中学校への出張講義を通し、子どもへのタバコに関する健康教育を行っています。



専門分野：成人看護学

キーワード：がん看護，緩和ケア

地域連携・産学連携・地域活動について：

がん看護専門看護師として、臨床での実践を重ねながら、大学や臨床における看護教育・研究に携わっています。がん患者さんとそのご家族がその人らしく生き抜くことへの支援やケア提供者である看護師への支援に関心があります。がん看護に関する実践、教育、研究に関して、地域の皆様と協働し、がん患者さんとそのご家族の Quality of Life の向上に貢献したいと考えています。



専門分野：精神看護学

キーワード：心の病気（精神疾患），地域生活支援，精神科訪問看護

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は精神疾患をもつ方々が地域で安心して生活できるよう支援をしたいと考えています。そのために、精神疾患をもつ当事者の方々や、その支援にあたっておられる職種の方々の声をきかせて頂き、一緒に課題解決に取り組んでいきたいと考えています。研究の世界に足を踏み入れたばかりですが、地域のみなさまと力を合わせていきたいと思っています。



専門分野：基礎看護学

キーワード：看護技術，リラクゼーション，マッサージ，看護師の腰痛

地域連携・産学連携・地域活動について：

「市民および医療に携わる人々とのふれあいを通して志向する未来看護塾」の副顧問として、人間看護学部の学生さんと子どもや高齢者、障がいの有無に関わらず、地域の方々を対象に心も体も健康になってもらえるような活動（ハンドマッサージや足湯、キッズ広場）をしています。また、県内における看護師の腰痛予防や地域の防災訓練に関する研究を通して、地域で活躍されている看護師や地域住民への健康支援を行っています。



専門分野：基礎看護学

キーワード：学生，学び，実習指導，腰痛予防，教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

看護学生が自ら楽しく学べるように、主に病院での実習において困っている場面を振り返りながら、どのような支援が必要なのかを研究してきました。患者さんや地域の人々に寄り添える看護職者になってほしいと思い、日々授業や研究に取り組んでいます。また、地域の人々が生き活きと生活していけるような活動を企画・実施している学生プロジェクトチーム「未来看護塾」の活動を支援しています。活動を通して、地域に貢献していきたいと思っています。



専門分野：成人看護学

キーワード：回復期，慢性期，脳卒中看護，口腔ケア

地域連携・産学連携・地域活動について：

脳外科病棟での看護師としての経験から『脳卒中患者の食べられる口づくり』に関する研究をしています。脳卒中患者は“食べる・飲み込む”という機能が低下することが多いため、肺炎などの呼吸器感染症の予防と、“食べる・飲み込む”という機能を維持する口腔ケアが重要だと考えています。地域活動では、病院で口腔ケアに関する講義や口腔ケアの実践などを行っています。今後は、地域や学校などでも口腔ケアの普及活動ができることを願っています。



専門分野：小児看護学

キーワード：発達障害児とその家族への看護，プレパレーション

地域連携・産学連携・地域活動について：

発達障害をもつ子どもの医療機関への受診支援について研究をしています。発達障害児にとって外来受診は、受診する意味や目的がわからないことが多く、不安や恐怖心が大きくなることがあります。そうすると、上手く診察や治療を受けることができず、嫌な経験だけが記憶として残ります。外来受診での嫌な経験は、大人になるまで続き、受診できなくなることで、健康管理問題につながってしまいます。そういった状況を改善するために、子どものがんばれる力を引き出せるような看護活動や支援をしていきたいと思っています。



専門分野：クロニックケア看護

キーワード：慢性疾患看護，語り，ライフヒストリー

地域連携・産学連携・地域活動について：

慢性疾患とは、一生治らない病気です。患者さんは、退院されてからも病いとともに生きることが必要です。よって日々の生活が患者さんに大きな影響を与えます。患者さんの自己管理サポート方法の一つが患者さんの「語り」を聴くことです。患者さんには、これまでの人生を語っていただくライフヒストリー法を用います。看護外来で忙しい中、限られた時間の中でどのように患者さんを理解していくか、特に糖尿病患者さんで自己管理がうまくいかない方、反対にうまくいく方の要因をライフヒストリー法を用いて自己管理を進めていくための協力を行いたいと思います。



専門分野：母性看護学，助産学

キーワード：育児不安，子育て支援，産後の母親サポート

地域連携・産学連携・地域活動について：

現代子育てを取り巻く環境は、母親や子どもにとって優しいとは決して言えない状況にあります。そのため、連日のように、虐待や育児放棄などが報道されています。現代社会において、どのような支援や取組が必要であるのかを中心に、子ども・子育てに優しい社会づくりに貢献できるように努めていきたいと思っています。

川口 恭子

KAWAGUCHI Kyoko

人間看護学部人間看護学科 助手



専門分野：公衆衛生看護学

キーワード：公衆衛生看護，保健師活動，ひきこもり，家族支援

地域連携・産学連携・地域活動について：

市の保健師として勤務していた経験があり、大学では保健師の活動に関する授業や実習指導に携わっています。現在進めている研究は、ひきこもり状態にある方の家族支援です。ひきこもりについては、近年高齢化や長期化が課題となっており、当事者やその家族への支援について地域の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

濱野 裕華

HAMANO Yuka

人間看護学部人間看護学科 助手



専門分野：母性看護学，助産学

キーワード：助産師，助産師教育

地域連携・産学連携・地域活動について：

私は、数年前まで大学病院の産科病棟で勤務していた助産師です。臨床現場から教育研究の世界に足を踏み入れたところですが、共同研究協力者として地域で活躍されている専門職の方々と共に、女性とその家族、地域社会に関する研究活動を進めています。

地域活動では、滋賀県助産師会が天津市から委託を受け開催する「初めてのパパママ教室」の助産師スタッフをしています。また本年度は滋賀県消防学校消防職員専科教育救急科講師として分娩介助実習の補助を行いました。

最近、妊婦の健康と癒しに関心があり、マタニティヨガ指導者養成ベーシックコース課程を修了しました。今後探求したいテーマです。

松井 宏樹

MATSUI Hiroki

人間看護学部人間看護学科 助手



専門分野：老年看護学

キーワード：高齢者，看護，骨粗鬆症

地域連携・産学連携・地域活動について：

骨粗鬆症は自覚症状に乏しく、治療を中断する患者様が多い疾患であることが指摘されています。治療の中断は、骨粗鬆症を進行させ、わずかな衝撃で脊椎などに骨折を引き起こします。その骨折から、日常生活に支障をきたし、高齢者の自立した生活の妨げとなることもあります。そのため、骨粗鬆症と共に生きる高齢者の生活を支えるために、看護職に求められる支援のあり方について研究を進めています。このような研究を進めることで、地域で暮らす高齢者の方が骨粗鬆症治療を継続できるきっかけとなればと考えています。また、若い世代の方にも骨粗鬆症について知ってもらえたらと考えています。

全学共通教育推進機構

福井 雅英 FUKUI Masahide

全学共通教育推進機構 特任教授



専門分野：臨床教育学，教師教育

キーワード：子ども理解のカンファレンス，生徒指導，教師の専門性，学校論

地域連携・産学連携・地域活動について：

自死、いじめ、不登校、子どもの貧困など、生きづらさをかかえた子どもへの援助をどのように進めればよいか。小・中学校の現場経験を生かしながら教育現場で直面している諸問題を研究しています。

これまで「子ども理解のカンファレンス」を提唱し実践してきました。それは、一人の子どもの発達課題を多角的に検討し、その子に関わる大人の協同的な援助を創り出す実践です。学校や地域で子どもの人間的な育ちを願う方々と連携できればと思っています。

島田 和久 SHIMADA Kazuhisa

全学共通教育推進機構 特任准教授



専門分野：政治学，日本学，大学国際化

キーワード：地域ガバナンス，里山，自然災害，SDGs

地域連携・産学連携・地域活動について：

もともと理工系でしたが、その後 ASEAN 研究で PhD (博士) を海外で取得しました。大学教員になる前は、メーカー、県庁、環境 NGO など長らく勤務しました。現在は、東日本大震災での被災地住民の自発的支援活動を里山との関係で捉える研究をしています。これに関連して、Eco-DRR に関する研究を湖西地域で始めました。また、地域と海外をつなぐことにも関心を持っており、地域と本学留学生とつなぐための授業プログラムを実施しています。今年度からは SDGs の一つの目標である「グローバル・パートナーシップ」に関連して、地域（住民、企業、公的機関など）が連携して本学留学生と交流する研究プロジェクトも開始しました。大学国際化業務にも従事しており、在日外国大使館などとの連携強化をはかっています。



専門分野：英文学・英語教育

キーワード：20世紀イギリスモダニズム文学, ヴァージニア・ウルフ, 高大接続英語教育, 異文化理解

地域連携・産学連携・地域活動について：

20世紀イギリスモダニズム文学の小説や詩を中心に研究しています。特に、これまでの既存の価値観を打破し、「意識の流れ」等の新しい小説技巧を使った実験的な作品に興味を持っています。これまで、さまざまな大学および中学校や高等学校での教育経験があり、学習者のレベルに応じて、フォニックス学習から難関大学入試対策、TOEICやTOEFL、英検、GTEC等の民間試験対策（4技能の養成）をすることができます。英語による茶道指導研修を受けており、国連や学校等で日本文化（茶道、座禅など）を英語で実演しながら紹介する活動も行ってきました。



専門分野：英語教育

キーワード：アカデミック・ライティング, フィードバック, 図的外化, 意味順, 教育文法

地域連携・産学連携・地域活動について：

論文・レポートの書き方や、その指導法について研究しています。日本では、書き方の指導や、書いた文章へのフィードバックをもらう機会が多いとは言えません。私自身、大学時代は見よう見まねでレポートを書いていた経験もありました。大学のライティング・センターに勤務していた経験も活かし、図を使った思考の「見える化」や、効果的な文章支援の仕方について、大学生が書いた文章やアンケートを分析して探っています。また、英語教育では、日本人は話せない、書けないという悩みを解決すべく、現在教育文法の分野で注目されている「意味順」（田地野 1995）の効果検証や、指導法の開発を行っています。



専門分野：英語教授法, 第二言語習得

キーワード：タスクを取り入れた英語教育, スピーキング指導, 文法指導

地域連携・産学連携・地域活動について：

英語学習者の4技能（スピーキング・リスニング・ライティング・リーディング）を伸ばすための指導法の研究を行っています。特に初級レベルの学習者がスピーキング能力を伸ばすための教授法に興味を持っています。県内の高等学校でも英語教育に携わり、個々の学生に目標を持たせ、モチベーションを高めるための実践に取り組んできました。今後も様々な英語学習者のニーズに合った英語教育を実践していきたいと思っております。



専門分野：外国語教育論

キーワード：大学英語教育, (WTC) Willingness to Communicate

地域連携・産学連携・地域活動について：

近年、英語は世界の共通語の一つとして大きな役割を果たすようになってきました。私たちにとって英語は、日本語の枠を超えて情報を入手し、意思疎通をおこない、協力して仕事をしたり友人を作ったりするために、たいへん役に立つツール（道具）です。ただ、「ことば」という道具は、使い方を教われれば、誰もがすぐに完璧に使えるようになるものではありません。どのようにすれば、英語を「勉強している（させられている?）」人が、英語を「自分のことばの一部として使う（使うことを楽しめる）」人になれるのか、というのが私の研究テーマの一つです。英語教育を通じての地域貢献ができれば幸いです。



専門分野：言語・英語

キーワード：Speaking assessment, CALL, teacher education

地域連携・産学連携・地域活動について：

Although I have many research interests, CALL (computer assisted language learning) is my most recent research endeavor. CALL has been shown to be effective for a variety of language learning needs, and because almost all students now have a smartphone, CALL can be utilized now more than ever. I'm also interested in accurately assessing student speaking and helping students pinpoint areas to improve in. Pronunciation is one area in which virtually all students feel self-conscious and want to improve in, and I'm excited to pursue research with the same goal. Teacher education is vitally important because teachers must improve themselves as much as we ask our students to improve. I'm looking forward to pursuing this strand of research in the near future, especially through CALL training and education for teachers.



専門分野：外国語教育, 日本語教育, eラーニング, 社会言語学

キーワード：言語学, 第二言語習得, 日本語

地域連携・産学連携・地域活動について：

第二言語習得、外国語教育カリキュラムを専門にオンラインで行われている日本語教育について研究してきました。滋賀県立大学では交換留学生に日本語を教えています。留学生が彦根で安心して生活でき、地域の方々ともうまくコミュニケーションがとれるよう努めています。

地域共生センター 産学連携センター 学生支援センター

鵜飼 修 UKAI Osamu

地域共生センター 准教授



専門分野：地域計画，地域活性化，まちづくり，NPO，コミュニティ・ビジネス

キーワード：持続可能，地域づくり，地域ビジョン，地域診断法，健康まちづくり，コミュニティ・ビジネス，ワークショップ，まちづくり基本計画

地域連携・産学連携・地域活動について：

地域資源を活かした住民主体の地域づくり活動の支援、手法の研究を行っています。

地域づくり活動の核となる「地域ビジョン」の策定、共有の手法として「地域診断法ワークショップ」を開発し、県内外各地で実践しています。地域づくり活動の実践手法である「コミュニティ・ビジネス」を自らも実践し、その実践ノウハウをお伝えしています。地域住民がビジョンを共有し、その地域ならではの資源を活かした、持続可能な地域づくり活動、地域コミュニティの創造を目指しています。これらのノウハウを教授する場として大学院「近江環人地域再生学座」、学部「近江楽土地域学副専攻」を担当しています。

上田 洋平 UEDA Yohei

地域共生センター 助教



専門分野：地域文化学，地域学

キーワード：地域再生，まちづくり，地域文化，地域資源活用，地域人材育成

地域連携・産学連携・地域活動について：

イ) 地域学 (いる)：まちづくりの「そもそも」を住民自ら問い直し、地域に根差したゆるがぬ暮らしを生むための「産婆役」です(地元学ワークショップ・セミナー、「ふるさと絵屏風」による地域文化継承等)。

ロ) 地域実践 (する)：自然・人・歴史といった地域の「めぐみのめぐりあわせ」による価値の創造や課題解決を支援します(中山間地域・離島振興、若者定住、地域観光振興等)。

ハ) 人材育成 (なる)：地域という「斜交場」で多様な人財が生まれ育ち、つながる場のデザイン＝「人が育つ場を育てる」活動を支援します(自治体やNPOによる人材塾/研修の企画・開発、地域おこし協力隊の活動支援等)。



専門分野：まちづくり，都市・地域計画

キーワード：まちづくり，都市・地域計画，地域再生，ワークショップデザイン，人材育成

地域連携・産学連携・地域活動について：

都市計画のコンサルタントとして、都市・地域計画やまちづくりなどに、長い間、関わってきました。その延長で、まちづくりや市民活動の支援、地域の担い手育成などにも関わっています。

人口の減少と高齢化が一層進むなかで、自分たちが暮らす地域を、自分たちで住みよく元気にし、次代に引き継いでいく。今、そんな取り組みに関心があります。一住民として、そうした活動に関わっています。

市民劇団のメンバーとして舞台上で演じたり、社会人落語家として高座を務めたり、コミュニティ FM のパーソナリティもやっています。これまでの経験を活かして、地域の取り組みのお手伝いできれば、と思っています。



専門分野：機械工学，破壊力学，信頼性工学

キーワード：薄板金属材料，複合材料，セラミックス，薄膜，疲労

地域連携・産学連携・地域活動について：

キャリア教育、および学生の就職活動の支援を担当しています。学生にとって、大学は学びの場ですが、卒業後の進路を考え、決める場でもあります。キャリア教育では、学生が卒業後のキャリア（働き方、日常生活の過ごし方）を考え、大学生活でなすべきことを広い視野で考え、実行することにより、自分に合った進路が見つかるようになることを目標としています。就活支援では、学生ができるだけ希望する就職先に内定するように、エントリーシートチェック、面接の練習などを行っています。さらに、滋賀県の優良企業をできるだけ多く紹介して、企業選びの視野が広がるように指導を行っています。

キーワード索引

あ行

アーキテクトビルダー	28	液相プロセス	41	家族支援	79,82,85,89
アカデミック・ライティング	91	江戸時代	57	加速度センサー	50
空き家の利活用	55	エネルギー	14,37,51	語り	88
アジア都市史	28	エネルギー教育	23	学校看護師	80
アミノ酸	64,65,66,68	エネルギーシステム	24,48	学校論	90
アメリカの詩	74	エネルギー変換材料	40	活断層	15
安全観	19	絵巻	56	カーボンドット	41
安全管理	79	沿岸域	21	ガラス	36,39
イオンビームプロセス	49	園芸	32	ガラス・融液の構造	54
育児支援	83	嚙下障害	65	ガラス融体	39
育児不安	88	燕行使	59	体の柔らかさ	19
遺産修復保存	27	エンドオブライフ教育	79	カリキュラム	71
維持管理	46	エンドオブライフケア	79,85	カリキュラム点検法	13
意思決定支援	50	近江の地域史	55	がん看護	86
イタリア	61	近江を描く絵	56	環境	70
遺伝子	33	応用力学	26	環境意識	23
遺伝資源	32	音響	51	環境共生	27
遺伝子探索	33			環境形成機能	18
遺伝子発現解析	18	か行		環境建築	26
イネ	31	外交	59	環境効率	34
いのちの教育	83	開口部	28	環境史	55
異文化理解	91	介護保険制度	79	環境支払い	21
意味構造	73	害虫	33	環境動態	31
意味順	91	外皮	28	環境配慮型製品	43
意味論	74	回復期	87	環境配慮行動	22,23
医用画像	51	回復期看護	81	環境バリアフリー	60
医療安全	84	外来種	15,16,33	環境保全型農業	34
医療機器	80	外来水生植物管理制度	21	環境マーケティング	21
医療倫理	79	外来水草	17	環境マネジメントシステム	21
インクルーシブ教育	72	会話分析	69	看護	89
ヴァージニア・ウルフ	91	科学・思想と建築	29	看護・介護動作改善システム	42
ウィメンズヘルス	82	化学スペシエーション	16	看護介入方法の開発	82
産み育て支援	83	化学物質	19	看護学生	84
運動	67	化学分析	19	看護管理	82
英語圏文学	75	かかわり	84	看護技術	87
英語の歴史	76	学習システム	78	看護教育	81
衛星観測	52	学生	87	看護師	84
栄養	67	華人	59	看護師の腰痛	87
栄養疫学	67	ガスエンジン	45	看護理論	82
栄養塩	16	火星	52	看護倫理	82
栄養教育・栄養指導	66	河川	16,30	間混作	31
栄養状態	68	河川とその周辺の地形	13	肝疾患患者の支援	85
栄養・食事指導	66	画像計測	52	患者看護師関係	84
栄養ストレス耐性	33	画像工学	52	緩和ケア	86
栄養素代謝	65	画像信号処理	50	機械学習	51
栄養評価	65	画像認識	51	機械工学	44
液晶	38	家族	59	危険認知	84
		家族看護	80	気候変動	22

気象学	52	ケアとしての音楽療法	81	工法	29
希少種	15	景観	20,25	高齢者	80,85,89
寄生虫	16	蛍光材料	40	高齢者の栄養	65
基地・軍隊	70	形式と意味	74	古環境復元	18
機能性高分子	41	芸術と建築	29	小型家電リサイクル	23
機能性材料	37	形態形成	32	心の健康	
機能性成分	34	系統分類	32	(メンタルヘルス)教育	78
機能性ナノ材料	36	軽量化設計	43	心の病気(精神疾患)	78,86
技能伝承	44	月経カップ	82	子育て支援	79,88
きのこ	33	結婚	59	骨格筋	67
木の実	17	結晶構造解析	38	骨粗鬆症	65,89
救急看護	85	結晶性高分子	38	子どもの成長発達	82
急性期看護	81	ゲル	13,38	子どもの貧困	83
急性腎障害	68	限界集落	61	子ども理解のカンファレンス	90
キュレーター	28	健康寿命	65	コミュニケーション論	69
教育	87	健康まちづくり	93	コミュニティ・ビジネス	93
教育訓練システム	44	言語学	75,92	古民家再生	55,62
教育制度	71	言語教授法	76	ゴム	13
教育評価	71	検査	47	古文書	57
教育文法	91	原子配列	37	固有振動	45
境界	84	建築・デザインの展覧会	28	語用論	74
教師の専門性	90	建築・歴史	27	混相流	42,46
強度	39	建築計画	28	コンピューテーション	29
共振	43	建築設計	25,26,28,62		
漁業史	57	建築デザイン	26	さ行	
魚類	31	高温高圧	54	災害史	55
近現代建築の構法研究	62	高温物性	36	再生産労働	59
近現代史	74	公害反対運動	21	在宅看護	84
菌根共生菌	35	工業都市	21	在宅看護学教育	79
筋サテライト細胞	64	口腔ケア	87	在宅看取り	79
金属イオン捕集	39	攻撃的行動	80	最適設計	43
金属酸化物	41	考現学	60	在日朝鮮人	76
金属ナノ粒子	36	公衆衛生看護	89	細胞死	64
金属分析	32	公衆栄養学	67	在来魚	30
近代	77	酵素	33,40	在来種	33
近代建築史	28	構造計画	25	祭礼	57
筋肉	64	構造形態創生	26	サステイナブルデザイン	26,27
菌類	33	構造最適化	26	殺菌剤	35
空間デザインに関する		構造設計	29	殺菌剤の作用機構	30
調査研究および制作	62	高大接続英語教育	91	雑穀	31
空間パターン形成	17	行動解析	50	里山	17,74,90
空気圧システム	46	行動観察	62	サプライチェーン	
クエーカー信仰	76	行動経済学	62	マネジメント	22
組み合わせ最適化	51	構文	74	参加型流域評価	23
グラフィックデザイン	63	高分子	13,37	産後ケア	82
グリーンイノベーション	22	高分子ゲル	41	産後の母親サポート	88
グリーンインフラ	25	高分子合成	41	産地	58
クリマデザイン	27	高分子物性	37	ジーン・シャープ	76
グローバリズム	75	高分子ブレンド	37,38	ジェスチャー分析	69
グローバル教育	71	構法	25	ジェンダー	56

支援ツールの開発	82	集水域	19	深度画像	50
時間栄養	65	集積回路	52,53	心理学	69
磁気計測	48,50	集団教育	85	心理測定	72
色彩	60	住民参加	20	森林	18,19
色素	38	授業研究	71	森林認証	21
子宮頸癌	80	授業の基本	13	水源林	21
子宮体癌	80	宿主抵抗性	30	水産	31
刺激応答性材料	41	授乳期	66	水質	17,19,20,30,31
脂質	40	障害者	85	水生植物	32
脂質代謝	67	障がい児用電動移動支援機器	42	水素吸蔵合金	38
思春期の健康支援	83	障害に合った食形態の工夫	65	水田	30,35
地震	15	(とくに精神)障害者福祉	72	数値シミュレーション	46,53
地震予測	15	消化試験	35	数値流体解析	45
システム工学	52	商業空間設計	62	数理モデル	17
磁性ナノ粒子	36	少数民族居住文化	62	スクールカウンセラー	69
自然	74	情報可視化	50	図的外化	91
視線運動	84	照明	60	ストレス蛋白質	64
自然エネルギー	27,48	初級中級のスペイン語	13	スピーキング指導	91
自然環境保護制度	21	食育	66	スペイン植民地都市	27
自然災害	90	食行動	70	スペクトル・散乱理論	43
自然災害科学・防災学	22	食事パターン	67	スポーツ栄養サポート	66
持続可能	93	食生活	67	スマート化	49
持続可能な開発の ための教育 (ESD)	71	食成分	67	生活空間論	27
持続可能な地域づくり	23	職人	61	生活習慣病	67
事態認知	74	触媒ナノ粒子	36	生活と健康	78
自治体	20	植物	15	成形加工	37
実応用	52	植物病原菌	30,35	政策過程論	23
湿害対策	31	植物プランクトン	17	精神科訪問看護	86
実関数論	54	植民地	76	生体機能材料	40
実業補習学校制度	71	助産学教育	79	生態系	18,20,35
実習指導	87	助産教育	82	生体計測	46
児童虐待防止	83	助産師	89	生体有効性	68
詩の創作	74	助産師教育	89	生徒指導	90
地場産業	58	女性史	57	青年期教育	71
シミュレーション分析	24	女性像	56	生物群集	17
市民参加	23	女性の健康		精密ラジカル重合	41
市民参加・協働	23	(ウィメンズヘルス) 支援	83	西洋服装史	61
シャーマニズム	75	自立支援型移乗介助ロボット	42	世界文学	75
社会運動・市民運動	70	飼料	31	赤外線サーモグラフィ法	46
社会学	69	飼料成分	35	施策の有効性と限界	20
社会実験	22	自励振動	45	石灰岩土壌	32
社会調査	70	進化	16,70	設計・製造パラメータ のロバスト化	43
社会的影響	72	神経疾患	81	絶滅危惧	61
社会的ひきこもり	72	信号処理	48	セラミックス	36,94
社交	77	人工知能	52	セルフコントロール	72
集回路	49	人材育成	94	セルフマネジメント支援	81
重金属集積植物	32	深層格	73	繊維	13,37
周術期看護	85	腎臓における物質の輸送	68	全ゲノム関連解析	33
重症心身障害看護	82	振動	47	センサー	49,52
		振動抑制	43		

センサネットワーク	53	地域づくり	93	伝統的居住文化	62
戦争考古学	56	地域伝統野菜	34	伝統的建造物の保存	58
造園	25	地域ビジョン	93	天然高分子	39
騒音	45	地域文化	93	天然毒性	19
創造的歴史学	26	地殻変動	15	電力システムモデル	24
足浮腫	80	地下水	15	電力遮断	53
素材	29	地球	52	電力需要	24
ソフトアクチュエータ	46	地球温暖化	22,34	電力貯蔵	48
ゾルゲル	41	地球温暖化抑制	22	電力変換・制御	48
村落	57	地球環境条約制度	21	ドイツ語	75
		地形学の基本	13	ドイツ語史	75
た行		知識創発	50	ドイツ文化	75
第一原理計算	40	窒化物	38	同位体比	19
大学英語教育	92	チベット	73	道具	61
大気汚染物質	19	地方教育行政	71	道具学	60
体形	61	地方自治	70	統計解析	17,33
耐震診断	26	地方都市	57	陶磁器	56
ダイズ	31	中間支援組織	23	動詞分類	73
堆積物	18	中・近世城郭	56	糖代謝	67
第二言語習得	76,92	中国の少数民族問題	74	導電性高分子	39
大名墓	56	超音波	47,51	導電性ナノ粒子・ナノワイヤ	36
太陽電池	37,39	調査設計	72	糖尿病性腎臓病	68
第四紀	18	鳥獣害	17	動物	15
竹構造	25	朝鮮王朝	59	動物行動調査	35
タスクを重視した言語教育	76	朝鮮・韓国	76	当屋制	56
タスクを取り入れた英語教育	91	朝鮮通信使	59	特産物	58
建物伝熱性状	28	超微細加工	49	都市	70
タバコに関する健康教育	86	超分子材料	40	都市計画	27
多文化共生	76	調和解析	54	都市再生	27
断熱性能	28	チンギスハーン観	75	都市社会史	57
タンパク質合成	64	通信	52	都市・地域計画	94
たんぱく質と腎障害	68	通信システム機器・部品	49	都市デザイン	26
地域	61	ツーリズム	26	都市農村における	
地域エネルギー政策	23	ディーゼルエンジン	14,45	景観まちづくり	58
地域ガバナンス	90	低環境負荷	34	土壌	34
地域環境	27	データマイニング	50	土壌化学	32
地球環境条約制度	21	テキスタイル	61	土壌環境修復	32
地域環境問題	21	テキストマイニング	50	土壌構造	32
地域教育史	71	デザイン	61	トチノキ	17
地域計画	27,28	デザイン史	28,29,60	土地の履歴	25
地域再生	93,94	デザインビジネス	63	土木環境システム	22
地域史	76	デザインブランディング	62		
地域資源活用	93	デジタルデザイン	29	な行	
地域資源管理	58	デバイス	49	ナノ結晶作製	51
地域社会	70	電気計測	50	ナノテクノロジー	49
地域住民	21	電磁気応用	50	ナノ粒子	39
地域人材育成	93	電磁波	49	ニート・ひきこもり	71
地域診断	83	電子部品	36	日射熱取得性能	28
地域診断法	93	電池材料	38	日中関係	74
地域生活支援	86	伝統産業とデザイン	60	新渡戸稲造	76

日本語	92	光触媒	39	フラレン	39
日本中世の村落史	55	ひきこもり	89	プラスチック	13,38
日本の詩・翻訳	74	非行の立ちなおり	69	プラズマ	49,53
日本美術史	56	微細藻培養	16	プランクトン	16
乳児	66	微小信号	48	フランス	77
乳幼児	70	微小粒子状物質(PM2.5)	19	ブランディングデザイン	63
人間型ロボット	44	美食	77	プレパレーション	80,88
認知症	80,81	微生物群集構造解析	18	プロダクトデザイン	63
妊婦と胎児の栄養	66	微生物制御	18	プロモーション	62
熱音響	51	非線形光学	51	文化遺産教育	58
燃焼	14,45	ビタミン	65,68	文化人類学	73
燃料	45	人の行動と環境	29	文化的景観の保全	58
脳機能	68	非破壊	48	文化的景観の保存	55
農業水路	35	非破壊検査	44,46,50	分岐ポリマー	37
農山漁村	70	非平衡相	38	分子	38
脳卒中看護	87	非暴力行動	76	分子遺伝学	35
農村計画	27	ヒューマンインタフェース	44	分娩介助	79
脳のしくみ	81	病原性関連遺伝子	30	文法指導	91
農林水産業	52	病原性発現機構	30	分類	16
農薬	31	表層格	73	平安京	57
は行		表面界面	39	ペプチド	40
バーチャルリアリティ	44,51	表面処理	44	ペロブスカイト系太陽電池	40
バイオインフォマティクス	33	微粒子	39	偏微分方程式論	43,54
バイオ炭	34	微量化学物質	31	保育	70
バイオ燃料	14	微量分析	16	貿易と環境	22
廃棄物処理計画	20	疲労	44,94	放課後児童クラブ	69
廃棄物処理施設	20	疲労き裂	46	芳香族炭化水素	38
廃棄物政策	20	琵琶湖	16,17,20,30	芳香族化合物	40
破壊	36,39,44	琵琶湖舟運	57	防災	78
薄板金属材料	94	琵琶湖集水域	18	放電	53
薄膜	94	ファイトレメディエーション	32	訪問看護	84
はく離	46	ファインバブル	42	訪問看護師の	
パッケージデザイン	63	ファッション	61	ストレスマネジメント	79
発酵	40	ファッション情報	61	暴力	70
パッシブデザイン	26	フィードバック	91	保健師	83
発生源解析	19	風景	25	保健師活動	89
発生装置	42	風洞実験	45	母子保健	83
発達	70	フードシステム	58	母性看護学教育	79
発達障害	82,83	複合材料	94	保全生態学	15
発達障害児と		複雑ネットワーク	49	母乳	66
その家族への看護	88	福祉工学	46	母乳育児	82
花	32	服飾	61	ポピュラー音楽	75
反芻家畜	35	服飾文化	61	ポリフェノール	64,67
半導体	49	福祉ロボット	42	ま行	
反応制御	37	複素芳香族化合物	40	マーケティング・リサーチ	62
東アジア国際関係	59	仏教	75	マイクロカプセル	39
東アジアにおける女性の移動	59	物質循環	17,18,34	マイクロバブル	42
微化石	18	物性評価	51	巻き込まれ	84
光	37	物体周りの流れ	45	まちづくり	27,61,93,94
		浮遊性有孔虫	18		

まちづくり基本計画	93
学び	87
町なみ保存	55,58
マッサージ	87
摩耗	44
慢性期	87
慢性期看護	85
慢性腎臓病	65,68
慢性疾患看護	88
慢性の病い	81
水管理	35
水草利活用	16
水工学	22
未成年の喫煙防止教育	86
水利用	56
未利用資源	35
民俗芸能	57
民族問題	75
無線システム	53
メカトロニクス	44,46
メタマテリアル	49
メタン発酵	16
メディア	57
メディア学	75
メンテナンス	43
木質構造	26
木質バイオマス	33
モダリティ表現	73
モチベーション	72
モニタリング	47
物語に表現された空間	29
ものづくり	25
モンゴル	75
モンゴル・満洲地域研究	74

や行

野菜の水耕栽培	42
野生生物	33
有機合成	38,40
有機物	34
有機-無機ハイブリッド	41
有限要素法解析	50
有毒・有害プランクトン	18
油脂	14
要因分解	24
養液栽培	34
養殖	31
洋装化	61
腰痛予防	78,87
ヨーロッパ現代思想	75

ら行

ライフサイクル設計	43
ライフヒストリー	88
卵巣癌	80
リスク評価	19
流出メカニズム	31
流体	46
流体騒音低減	45
流体抵抗低減	45
量子情報	37
リラクセーション	78,87
リン	31
臨床看護学	81
リン代謝	65
リンパ浮腫ケア	81
レオロジー	37
歴史地震	57
歴史民俗学	56
劣化と耐久性	37
連携・協働	23
連成振動	45
連続光	34
ロボットアーム	44
ロボット制御	44

わ行

ワークショップ	93
ワークショップデザイン	94
若者支援	71
笑い与健康	78

1-0/A-Z

20世紀	
イギリスモダニズム文学	91
3D復元	50
CAE	43
CALL	92
DNAバーコーディング	32
DOHaD	
(生活習慣病胎児期起源説)	66
GIS	32
involvement	84
NPO	23
QTL解析	33
SDGs	90
Speaking assessment	92
teacher education	92
X線・中性子線分析	54

滋賀県立大学地域連携ガイドブック

平成 31 年 3 月

発行 滋賀県立大学 地域連携・研究支援課 地域共生センター
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
TEL: 0749-28-9851 (地域共生センター)
FAX: 0749-28-0220

※平成 31 年 1 月時点の教員情報を掲載しております